

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報

2018

仙台市富沢遺跡保存館
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場
SENDAI CITY JOMON SITE PARK

は じ め に

地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）は、2万年前の旧石器時代のたき火跡と森林跡を発掘したままの状態で保存・公開し、当時の景観を「氷河期の森」として野外に復元している施設です。平成8年に開館し、今年9月に利用者が90万人を超えました。また、姉妹館である仙台市縄文の森広場は、縄文時代の集落跡が発見された山田上ノ台遺跡を保存・活用する目的で、平成18年に開館し、今年9月で体験学習活動を含めた利用者は38万人を超えました。

地底の森ミュージアムでは平成29年度の事業として、旧石器時代の常設展示のほか、特別企画展「いにしえの木 林 森」など年4回の企画展、「氷河期の森」の維持管理をはじめとして、ミュージアムの特性を体感できる各種の講座や体験学習、季節ごとのイベント、仙台市縄文の森広場と連携して市内小・中学校を対象とした利用学習、職場体験、博物館実務実習などを開催しました。また、当館の特色でもある市民文化財研究員やボランティア育成などの事業、自主事業である「親子でつくろう古代米」・「ミュージアム・シアター『狩人登場!!』」などを実施しました。さらに、ボランティアの方々の協力による体験活動をととして地域住民との交流を図る「地底の森フェスタ2017」を開催したほか、大学生のサポーターや市内高校生の活動協力を得ながら、館活動に新たな展開を図っています。

仙台市縄文の森広場では、児童生徒やご家族連れが土器や勾玉づくりなどの多彩な体験活動に取り組んだほか、縄文文化に関する各種教室・講座など、市民参加による様々な事業を実施することができました。恒例となった年4回の縄文まつりでも、歴史的な空間の中で、地域の小・中学生や市民とともに楽しく有意義な交流を行うことができました。また、自主事業である、「縄文のまつり復元と創造プロジェクト『草舟づくり』・『縄文人の記憶の宴』」や「ドキ土器チョコレート」・「土器を食べちゃえ！～土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう～」などを実施しました。

地底の森ミュージアムと仙台市縄文の森広場は、テーマミュージアムとしての専門性を深めるのみならず、運営懇談会を開催するなどして市民ニーズに対応した新たな取り組みを行い、「人間と環境」を考えるランドマークとなるような事業展開を目指し、先人の知恵に学ぶという観点から、両館が相互に補完し合う施設としてさらに連携、協力を図りながら、歴史を継承するための事業を進めてまいります。

今後も、歴史的資源としてのみならず、豊かな地域資源としての可能性を開発していくためにも、両館の事業展開に多方面の皆様方の益々のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年10月

仙台市教育委員会
教育長 佐々木 洋

(公財)仙台市市民文化事業団
仙台市富沢遺跡保存館
仙台市縄文の森広場
館長 金森 安孝

目 次

はじめに
目次
例言

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要	1
2. 組織・運営	1
3. 沿革	2
4. 整備の目的と基本方針	8

〔地底の森ミュージアム〕

1. 平成29年度事業報告	12
(1) 展示事業	12
(2) 普及啓発事業	15
(3) 調査・研究事業	22
2. 施設管理	22
(1) 定例保守	22
(2) 建物・設備などの修繕	22
3. 利用状況	22
4. 入館者アンケート	23
5. 平成30年度事業計画	25
(1) 展示事業	25
(2) 普及啓発事業	25
(3) 調査・研究事業	27
(4) 縄文の森広場との連携事業	27
(5) 資料の収蔵	27
(6) 管理運営	27
(7) 刊行物	28
利用案内	28

〔仙台市縄文の森広場〕

1. 平成29年度事業報告	29
(1) 展示事業	29
(2) 普及啓発事業	31
(3) 体験活動事業	36
(4) ボランティア活動事業	38
(5) 調査・研究事業	38
2. 利用状況	39
3. 入館者アンケート	41
4. 平成30年度事業計画	42
(1) 展示事業	42
(2) 普及啓発事業	42
(3) 調査研究	43
(4) 資料の収蔵	44
(5) 管理運営	44
(6) 刊行物	44
利用案内	44

例 言

1. 本書は、公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け、平成29年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務（仙台市縄文の森広場を含む）の各事業などに係る実施報告と、平成30年度事業計画である。
2. 本書の編集は地底の森ミュージアムの長田麻里、仙台市縄文の森広場の篠原信彦が行った。

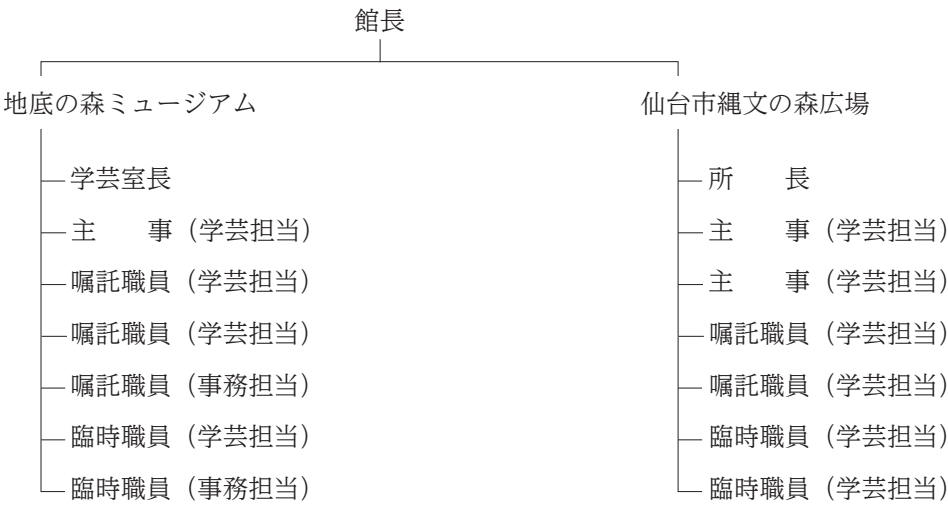
地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
開 館 日	1996年(平成8年)11月2日	2006年(平成18年)7月15日
設置場所	〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1	〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
敷地面積	14,263㎡	27,350.94㎡
延床面積	2,743㎡	1,211.78㎡
建築構造	地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート造一部2階建
特 徴	建物は、コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために、建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり、それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。 建物内部については、地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており、中地下も含めて、床にはアスファルトブロックが敷かれ、照明を抑えて清謐な雰囲気になっている。対照的に1階は床を板張りとし、自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも、来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり、そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。	野外には、復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し、環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと、未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。 その北側の一角に出土資料などを展示し、各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。

2. 組織・運営

両館の管理・運営は、仙台市より平成29年度から33年度までの5ケ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市市民文化事業団が行っている。



なお、地底の森ミュージアムは受付、警備、清掃を、仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

3. 沿革

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
1980年 昭和55年		宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で、縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され、集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るための「(仮称) 原始古代村構想」の検討がスタートする。
1982年 昭和57年	地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。	
1984年 昭和59年		旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。
1988年 昭和63年	富沢遺跡第30次の発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され、仙台市は遺跡の重要性に鑑み、小学校の建設地を変更し保存と活用を決断。	
1989年 平成元年	保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し、「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。	富沢遺跡と山田上ノ台遺跡とともに活用する方針で、「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備及び仙台市考古系総合博物館基本構想」が策定される。
1990年 平成2年	「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。	
1991年 平成3年	「(仮称) 原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。	
1992年 平成4年	富沢遺跡保存館の建築基本設計、展示基本設計、富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託、氷河期の森広場整備基本設計を行った。	
1993年 平成5年	富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計、氷河期の森広場整備実施設計、遺構保存処理システム策定業務委託を行った。	
1994年 平成6年	富沢遺跡保存館の建設工事に着工。	
1995年 平成7年	正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」、愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。	
1996年 平成8年	4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された(財)仙台市歴史文化事業団があたることとなり、その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また、遺構保存処理作業は8月、「氷河期の森」の造成工事は8月、植栽工事は10月に完了。 11月2日に富沢遺跡保存館が開館。	
1997年 平成9年	5月18日 天皇皇后両陛下ご来館。	
1998年 平成10年	3月7日 入館者10万人達成。	
2000年 平成12年	4月15日 入館者20万人達成。	山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。

2002年 平成14年	8月24日 入館者30万人達成。	第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。
2004年 平成16年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市歴史文化事業団が(財)仙台市市民文化事業団に統合されたことにより、事業団が指定管理者となった。	「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。
2005年 平成17年	5月19日 入館者40万人達成。	
2006年 平成18年		「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。 11月12日 入館者3万人達成。
2007年 平成19年	9月11日 入館者50万人達成。	7月15日 開館1周年記念イベント開催(記念植樹や演奏会などで祝う)。 7月29日 入館者5万人達成。
2009年 平成21年		5月4日 入館者10万人達成。
2010年 平成22年	6月12日 入館者60万人達成。	11月23日 入館者15万人達成。
2011年 平成23年	3月11日 東日本大震災により休館。	
	6月14日 再開。	4月12日 再開。
2012年 平成24年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市市民文化事業団が公益法人となる。	
		8月7日 入館者20万人達成。
2013年 平成25年	9月14日 入館者70万人達成。	
2015年 平成27年		11月3日 入館者30万人達成。
2016年 平成28年	6月12日 入館者80万人達成。	
2017年 平成29年	2月18日・19日 地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して、シンポジウムを開催。	
2018年 平成30年	9月22日 入館者90万人達成。	

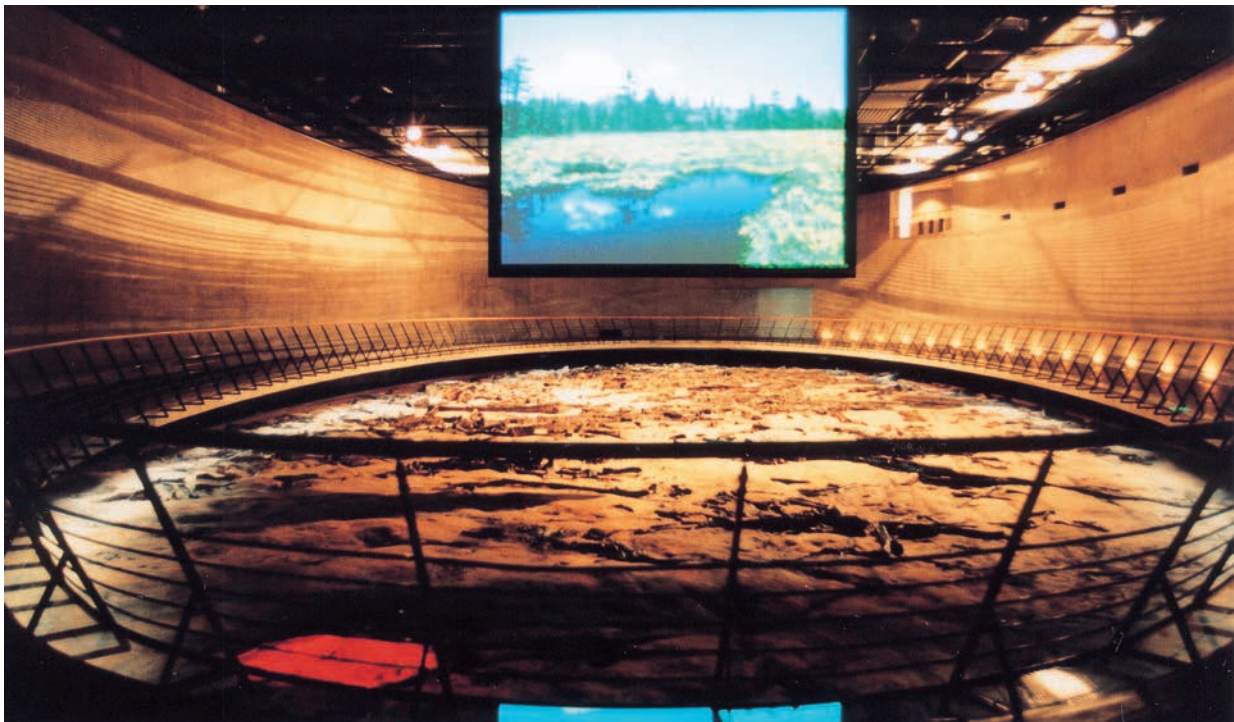


地底の森ミュージアム キャラクター
富沢博士



仙台市縄文の森広場 キャラクター
ハナちゃん

[地底の森ミュージアム]



地下展示室



外観



1階展示室

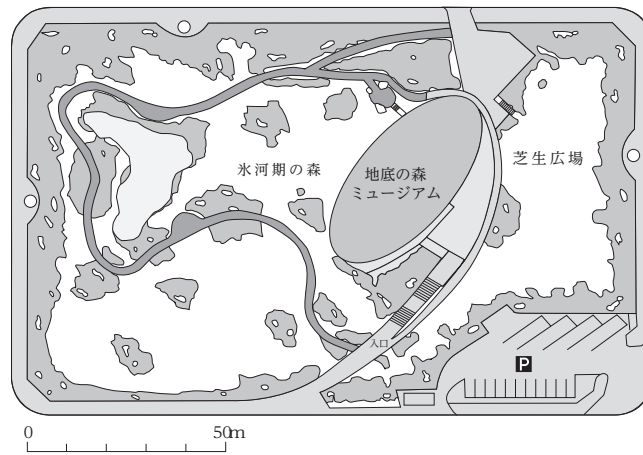


氷河期の森(春)

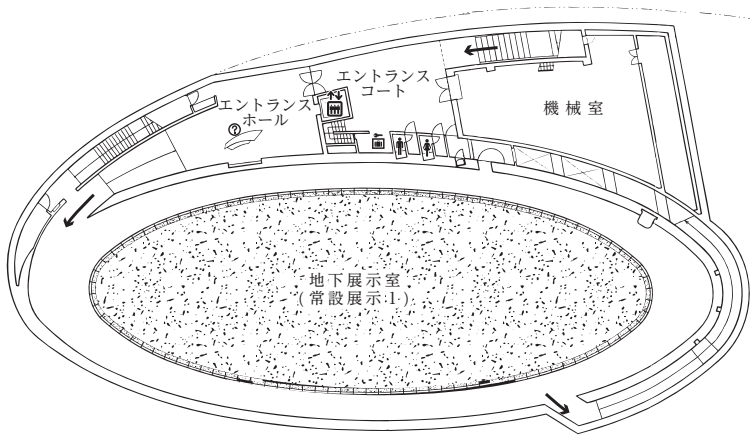
各室面積表

(㎡)

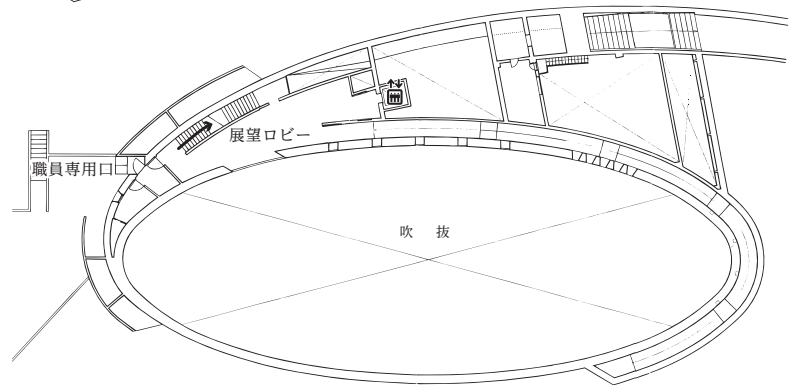
地下	- 地下展示室(常設展示1) - エントランスホール - エントランスコート(半野外) - トイレ - 倉庫 - 機械室 - E Vシャフト - その他	916 113 76 9 15 185 6 14
地下 中地下	- スロープ - 階段	124 31
中地下	- 展望ロビー - E Vシャフト - その他	74 6 59
1階	1階展示室 - 企画展示室 - 展望ラウンジ - 研修室 - 事務室・学芸室 - 収蔵庫 - 荷解室 - 自販機スペース - ボランティア室 - 廊下 - 階段ホール - トイレ - エントランス - 守衛室 - 機械室 - E Vシャフト - その他	311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18
ピット階 (21㎡)		21
計		2,743㎡



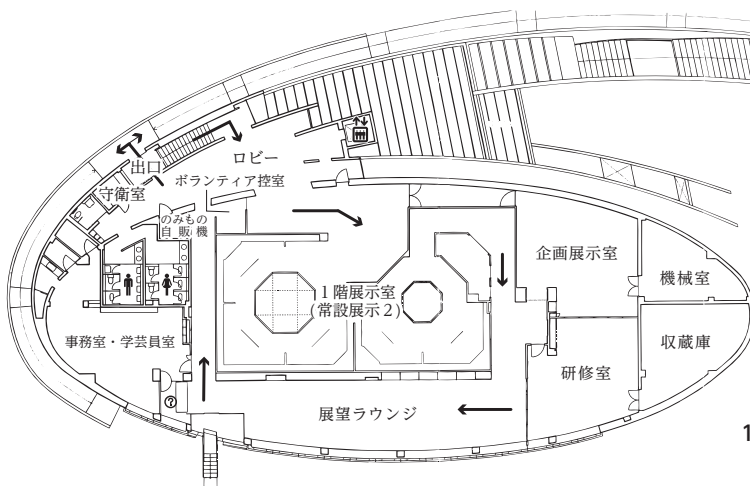
全 体 図



地下平面図



中地下平面図



1 階平面図

[仙台市縄文の森広場]



縄文ムラゾーンとガイダンス施設



ガイダンス施設内の展示室



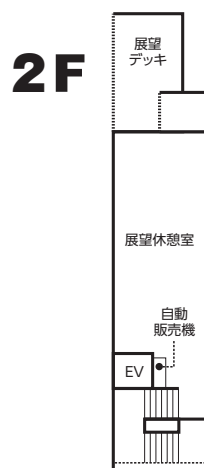
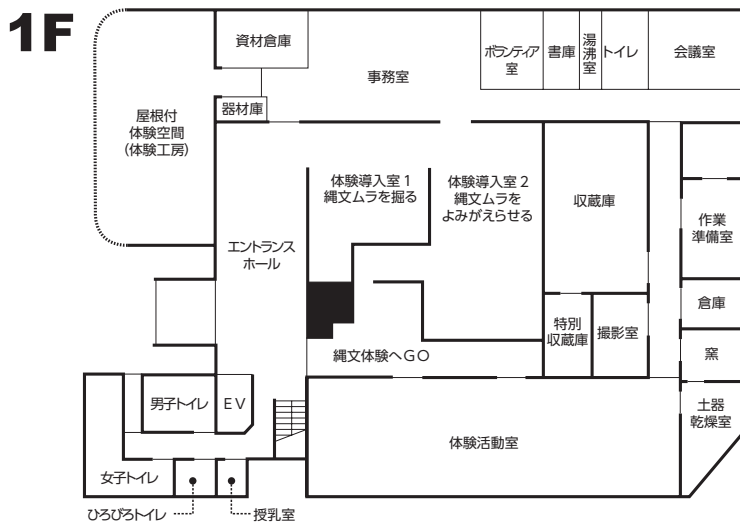
エントランスホール



体験活動室



展望休憩室



ガイダンス施設平面図

各室面積表

(㎡)

体験導入室	207.93
体験活動室	160.58
屋根付体験空間	98.70
展望休憩室	69.90
収蔵庫	81.19
ボランティア室	17.10
事務室	68.08
会議室	25.42

4. 整備の目的と基本方針

地底の森ミュージアム

設置の趣旨・目的	仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに、積極的に公開・活用していくこととし、樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と、発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。 仙台市富沢遺跡保存館は、この保存された富沢遺跡の活用をととして、主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。
基本的性格・基本方針	①富沢遺跡保存館は、世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら、積極的に公開・活用していく、市民が誇れる施設とする。 ②富沢遺跡保存館は、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに、発見された遺物などをととして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ、それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。 ③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では、富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を再現し、自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに、市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。 ④富沢遺跡保存館は、来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに、学校教育活動との緊密な連携を図りながら、生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。
収蔵資料	当館が建設された経緯から、仙台市教育委員会では所蔵する常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に、富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石、シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど、資料の日常的な管理作業を必要とする。 【常設展示関係資料】 ①人工遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層出土石器 111点(K63～K167c) ○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ 137点 ○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ 81点 ○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器 1点(A-1) ○富沢遺跡第30次調査出土石匙 1点(K-30) ○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器 1点(B-5) ○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁 1点(K-25) ○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏 1点(E-6) ②自然遺物 ○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物 1箱(テンバコ32) ③模型・剥製 ○人類頭骨模型 9点 ○シカ剥製(成獣、幼獣) 3体 ④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①富沢遺跡出土遺物

- 富沢遺跡第30次調査25～27層出土植物化石 2,091点
- 富沢遺跡第30次調査25層出土フン 21ブロック
- 富沢遺跡第58次調査21～41層出土植物化石 398点
- 富沢遺跡第63次調査21～25b層出土植物化石 52点
- 富沢遺跡第66次調査33～35層出土植物化石 25点
- 富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石 20点
- 富沢遺跡第88次調査9～13層出土植物化石 2,663点
- 富沢遺跡第88次調査9～11層出土フン 42ブロック
- 富沢遺跡第90次調査25～27層出土植物化石 1,525点
- 富沢遺跡第90次調査25層出土フン 20ブロック

②近隣遺跡出土遺物（仙台市指定有形文化財）

- 春日社古墳出土革盾 1点
- 春日社古墳出土鉄矛 1点
- 春日社古墳出土鉄鏃 1束（15本）

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・旧石器考古学 など
- 一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など

⑤イラスト及び版画 制作：細野修一

- 特別企画展関係 54点
- その他常設展示関係など 4点

⑥その他

- 二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点（平成9年4月17日受）
- 高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点、石器約330点など計約400点（平成14年8月19日受）
- 二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点（平成21年5月28日受）

仙台市縄文の森広場

設置の趣旨・目的	遺跡の整備は、地域社会あるいは都市空間のなかで、具体的な活用の姿を示し、社会的・文化的役割を担うことを目的とし、縄文ムラの復元によって、都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と、体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより、創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。
基本的性格・基本方針	【整備の基本方針】 ①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し、後世に伝える。 ②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り、継続的な発掘調査の成果を活かしながら、西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また、環境復元は現状の植生を考慮して行う。 ③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。 ④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。 ⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い、その成果を基に整備を行う。 【活動の基本方針】 ①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として、縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。 ②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い、山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。 ③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。 ④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし、縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。 ⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって、小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また、地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設との連携した活動を行う。 ⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に、社会科、歴史、総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。 ⑦ボランティアの育成と支援：体験学習に係るボランティアの育成を行い、多様なボランティア活動を支援する。 ⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に、山田上ノ台遺跡の重要性を理解し、活用してもらうためのさまざまな活動を行う。 ⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と、遺跡出土遺物の保管を行う。
収蔵資料	当館は建設の経緯から、仙台市教育委員会が所蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料、及びその他の出土資料を借用し、保管している。 【常設展示関係資料】 ①人工遺物 ○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料 土器40点・石器141点・土製品7点 ○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料 石器11点 ②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献

【保管資料】

①山田上ノ台遺跡出土遺物

○山田上ノ台遺跡第1次調査 旧石器時代の資料(テンバコ32)3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・篋状石器38点・その他石器9467点・石核(テンバコ32)2箱・凹石393点・礫石器(テンバコ32)6箱・磨製石器688点・焼礫石器(テンバコ32)6箱・石皿14点・扁平石(テンバコ32)5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・块状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片(テンバコ32)2箱・登録須恵器13点・須恵器破片(テンバコ32)2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨(テンバコ32)5箱・未整理(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)1箱

○山田上ノ台遺跡第2次調査 旧石器時代の資料(テンバコ16)1箱

○山田上ノ台遺跡第3次調査 石器(テンバコ32)2箱・接合資料26点・礫石器(テンバコ32)6箱・縄文土器(テンバコ32)1箱・炭化物(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)12箱

○山田上ノ台遺跡第4次調査 未整理遺物(テンバコ32)5箱

②縄文関連遺跡出土遺物

○下ノ内浦遺跡 遺物40点・パネル2枚

○伊古田遺跡 遺物47点・パネル1枚

○上野遺跡 遺物13点

○王ノ壇遺跡 遺物4点

○下ノ内遺跡 遺物2点・パネル2枚

○山口遺跡 遺物2点

○六反田遺跡 遺物2点・パネル1枚

○大野田遺跡 遺物20点 パネル2枚

○北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡 各1点

③寄贈図書

○博物館及び教育委員会 など

④購入図書

○定期購読図書：月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・博物館研究 など

○一般図書：縄文時代・考古学・博物館学 など

[地底の森ミュージアム]

1. 平成29年度事業報告

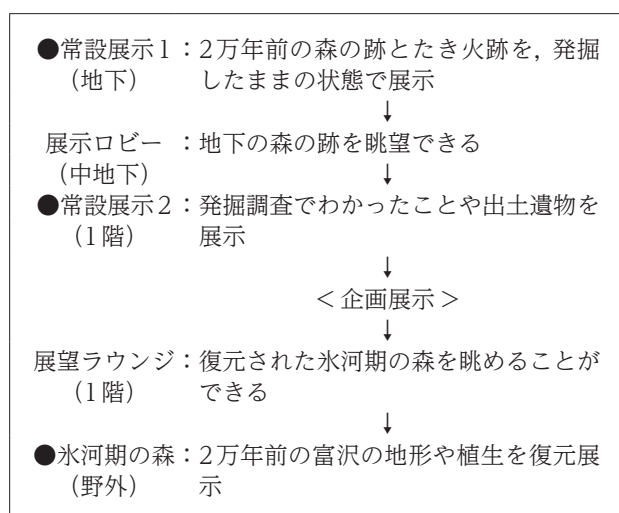
(1) 展示事業

① 常設展示

i) 展示の構成

来館者は、最初に地下の「常設展示1」で、発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し、さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして、最後に保存館より外に出て、復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。

なお、館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。



ii) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし、常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は、来館者におおむね好評であった。団体の見学も多く、展示説明を希望される場合は、職員及び当館ボランティアが館内の説明を行いながら一緒にまわっている。野外展示は、環境学習の場として活用が広がるとともに、鳥類や両生類、昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

○常設展示1(地下展示室)

・展示：900㎡の楕円形の大きな空間に広がる「本物」の遺跡と、壁面に広く映し出される湿地林の風景や昇降式スクリーンでの復元映画の放映などによる演出により、富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている。

・保存公開：地下の展示室では、保存処理された樹木と土壌の管理面で、室内の空調においては湿度と温度、地下水位については小型の水中ポンプの設定位置を調整することによって、保存・公開に適した状態を維持することに努めた。湿度70%以上を保つようにしているが、外気の湿度の影響を受けることもあったため、平成10年に地下展示室への出入口4ヶ所に扉(自動扉2ヶ所を含む)を設置する工事を行い、湿度の安定を図った。保存処理及び管理については、(株)C&P研究所に委託し、仙台市教育委員会と当館の三者で打合せを行いながら進めた。その際、東北大学工学研究科超臨界溶媒工学研究センターの猪股宏氏、東北芸術工科大学文化財保存修復センターの米村祥央氏の指導・助言を得た。

○常設展示2(1階展示室)

・展示：展示の構成は、順に a. 氷河期へのいざない、b. 富沢での人類の活動をテーマとする展示、c. 富沢の自然環境をテーマとする展示、d. 復元画と立体映像による展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や、全体をととして映像や模型、グラフィックパネルなど、視覚的な面を重視した展示は、大人から子どもまで楽しめる内容となっていて、小・中学生の学習活動に利用されるなど、好感をもたれている。特に、3Dの立体映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

○野外展示

・植生：仙台周辺には自生していない植物も多いことから、仙台市教育委員会と当館が打合せを行いながら氷河期の森の植生の維持と管理に努めている。その際には東北大学名誉教授の鈴木三男氏、東北大学植物園の牧雅之氏・米倉浩司氏らから助言・指導をいただきながら進めている。

また、植物の生態調査については、東北大学の委託研究として実施した。

② 企画展示

○特別企画展

第81回特別企画展「いにしえの木 林 森」

○会期：7月21日(金)～9月24日(日)

○開催日数：57日間

○入館者数：9,771人

○会場：企画展示室・研修室

○展示内容：低湿地に残された遺跡の発掘調査が進むことによって、旧石器時代以降の日本列島にどのような森林が広がっていたのかが判明してきた。まだまだ限られた例で

はあるものの、本展では東日本各地でみつかった森の跡とそこに残されていた人間活動について、旧石器時代から縄文時代を中心に紹介し、当館が保存する森林跡と比較しながら展示を行った。

○広報：仙台市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また、ポスター（600枚）・チラシ（8,000枚）を作成し、関係機関・各所に配布した他、交通機関（地下鉄）の広告掲示も行った。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○刊行物：A4版56ページの特別企画展図録を作成し、刊行した。

○協力機関：北海道立埋蔵文化財センター（公財）北海道埋蔵文化財センター つがる市商工観光課 岩手県教育委員会（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 山形県立博物館 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 山形市南山形コミュニティセンター 村上市教育委員会 縄文の里・朝日 新潟県教育委員会（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 東村山ふるさと歴史館 魚津埋没林博物館 豊田市郷土資料館 奈良県立橿原考古学研究所 橿原市教育委員会 三瓶小豆原埋没林公園 上峰町教育委員会 仙台市博物館 仙台市教育委員会



第81回特別企画展チラシ

○関連行事

・記念講演会「森と人のつながり 旧石器時代から縄文時代の森林とその利用」

日時：8月19日(土) 13:30～15:30

講師：工藤 雄一郎氏(国立歴史民俗博物館)

会場：仙台市太白区中央市民センター大会議室

参加者：58人



第81回特別企画展記念講演会

・ギャラリートーク

日時：8月6日(日) 14:00～15:00

講師：当館職員 参加者：16人



展示風景

・体験コーナー「木をしらべよう つくってみよう」

特別企画展期間中の3日間実施した。

日時：7月23日(日) 13:00～15:00

参加者：41人

8月27日(日) 13:00～15:00

参加者：35人

9月10日(日) 13:00～15:00

参加者：37人

会場：展望ラウンジ



体験コーナーのようす

◎企画展

i) 第80回企画展「仙台の遺跡 陸奥の「国府」郡山遺跡と周辺の遺跡」

○会期：4月14日(金)～6月18日(日)

○開催日数：55日間

○入館者数：10,568人

○会場：企画展示室

○展示内容：近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。本展は、仙台市内から出土した身近な資料をシリーズで紹介するもので、今回は国指定史跡である郡山遺跡を中心に上げ、関連する長町駅東遺跡や西台畑遺跡などと共に発掘調査の出土資料を中心に紹介した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター（カラー）B2 600枚、チラシ（表面カラー・裏面1色）A4 7,000枚



第80回企画展チラシ

○関連行事

・関連講演会：「陸奥の「国府」郡山遺跡と周辺の遺跡」

日時：5月20日(土) 13:30～15:00



第80回企画展講演会

講師：長島 栄一氏（仙台市教育委員会文化財課）

会場：研修室 参加者：93人

・ギャラリートーク

日時：6月3日(土) 14:00～15:00

講師：当館職員 参加者：20人



ギャラリートーク



展示風景

ii) 第82回企画展「陸奥国分寺展—発掘黎明期の挑戦者—」

○会期：10月20日(金)～12月17日(日)

○開催日数：49日間

○入館者数：9,038人

○会場：企画展示室

○展示内容：東北大学大学院文学研究科・東北大学総合学術博物館との共催企画として行った。東北大学が所蔵する、陸奥国分寺跡・菜切谷廃寺跡出土資料などを中心に、故伊東信雄氏をはじめとする、陸奥国分寺跡最初の発掘調査に関わった人々を紹介する展示を行った。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター（カラー）B2 600枚、チラシ（表面カラー・裏面1色）A4 7,000枚

○関連行事

・関連講演会：「陸奥国分寺・国分尼寺の成立と展開—文献資料と考古学資料—」

日時：11月19日(日) 13:30～15:00



第82回企画展チラシ

講師：堀 裕氏（東北大学大学院文学研究科 准教授）

会場：研修室

参加者：98人

・ギャラリートーク

日時：10月21日(土) 14:00～15:00

講師：当館職員

会場：企画展示室 参加者：30人



ギャラリートーク



展示風景

iii) 第83回企画展

「もりの風景2017」・「ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2017～」作品展

○会期：1月16日(火)～3月11日(日)

○開催日数：46日間

○入館者数：3,684人

○会場：企画展示室・展望ラウンジ

○展示内容：平成29年度に実施した「親子でつくろう古代米」の活動紹介や参加者が作成した絵日記の展示、仙台市立仙台工業高等学校模型部との連携イベントの紹介、ボランティア会の活動について、パネルや写真などで紹介した。

また、同時開催として「ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2017～」作品展を実施し、応募作品71点を地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場にて展示し、両館野外展示の多面的な利用や魅力について紹介した。なお、館長賞以外の入賞作品は両館における一般投票によって決定した。

○印刷物：ポスター（カラー）A3 100枚



ミュージアムフォトコンテスト募集チラシ

(2) 普及啓発事業

① 学校教育との連携

i) 利用状況

平成29年度の総入館者数における小・中学生の割合は24%であり、その多くは学校利用が占めている。仙台市内の学校の利用状況は、小・中学校が4～10月にかけて、利用学習として訪れることが多かった。

仙台市以外の学校の利用状況では、県内の学校は自主研修のコースとして、県外の小・中学校（福島県・山形県・秋田県・岩手県）は修学旅行や校外学習の目的地の一つとし

て、4～10月を中心に来館した。学年全体による団体での利用よりも、班別行動による自主研修活動の利用が多い。

ii) 利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して授業を実践する事業である。各校における博物館活用を、当館と縄文の森広場において職員とボランティアが授業を行う形で実施している。平成29年度の当館利用は小学校5・6年生で、総数24校1,739人であった。地下展示室の遺跡見学と「石器づくり」、「石器を使う体験」、「氷河期の森探検」の3つの体験学習から選択する学習プログラムを実施した。



利用学習のようす

iii) 職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の受け入れ依頼により、平成29年度は10校39人の中学生を受け入れた。1回につき3～4日間3～6人程度を受け入れて実施した。体験内容は、団体案内・体験イベントの補助、図書・アンケートの整理、野外展示の巡回などである。



職場体験活動のようす

iv) 博物館学芸員課程実務実習

当館の博物館実務実習では、県内の大学に通う学生や県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心とした希望者(最大定員12人)を受け入れている。平成29年度は11

月28日(火)～12月2日(土)の期間に、尚絅学院大学3人、東北学院大学1人、宮城学院女子大学2人、東北生活文化大学2人、岩手大学1人、東北芸術工科大学2人、計11人を対象に実施した。



博物館学芸員課程実務実習のようす

v) 教職員機関研修

学校教育との連携を推進するために、仙台市教育センターと社会教育施設との連携研修として、仙台市博物館・縄文の森広場と合同で機関研修を行った。市内小学校教員13人の参加があり、当館の展示内容やイベントなどの体験活動を実施する研修を行った。

日時：8月3日(木) 9:00～17:00

会場：展望ラウンジほか 参加者：13人

② 各種普及活動

i) 体験学習

当館は、旧石器時代のテーマミュージアムとして、石器づくりを主とした旧石器時代の生活技術について、体験を通して学ぶ事業を積極的に実施している。また、富沢遺跡からは弥生時代以降の水田跡が発見されていることと関連させて、「親子でつくろう古代米」などを実施した。

○旧石器体験教室

旧石器時代の体験を通して当時の生活についてより理解を深めることを目的に、旧石器時代と同じ方法・材料を用いた石器製作と、石蒸し料理などの体験学習を実施した。

日時：5月27日(土) 10:00～12:30

参加者：9人

○体験教室「親子でつくろう古代米」

事業団の自主事業として、古代米(紫黒米)の栽培・収穫をとおして、農業の歴史を実体験として感じてもらうことを目的とした。さらに館隣接地での栽培により、地域住民などとの交流を図ることで、当館が市民協働・連携など、

地域活性化の拠点となることを目標とした。

- 5月20日(土) オリエンテーション・田植え
参加者：44人
- 6月10日(土) 弥生土器づくり 参加者：55人
- 7月30日(日) 石庖丁づくり・かかしづくり
参加者：36人 ※雨天による順延
- 9月23日(土) 稲刈り 参加者：46人
- 11月3日(金・祝) 収穫祭 参加者：48人



田植えのようす



稲刈りのようす

○七夕版体験コーナー「石器で七夕の短冊をつくろう」

日時：8月6日(日)～8日(火) 13:00～15:00

会場：展望ラウンジ



七夕体験コーナーのようす

対象：当日の入館者 参加者：計73人

講師：当館職員、ボランティア、地底の森サポーター

内容：石器で短冊を切り、願い事を書いて竹に飾る体験を行った。

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：毎週日曜・祝日の13:00～15:00

対象：当日の入館者

内容：実際に紙を切って、石器の切れ味を体験してもらった。

○地底の森フェスタ2017

職員と当館ボランティアが共同で運営するイベントである。「石器づくり」・「やり投げ」・「火おこし」・「石器を使ってみよう」・「編布服試着・小物づくり」・「地底の森ガイドツアー」と、縄文の森広場の出張コーナー「火おこし」の7つの体験コーナー、及び石蒸し料理・地底の森スープ・古代米おにぎりの「地底の森料理」試食コーナーを設けて実施した。

日時：10月9日(月・祝) 10:00～15:00

会場：芝生広場・地下展示室他

対象：一般市民 参加者：計1,292人



地底の森フェスタ2017のようす

○手づくり工房★地底の森

ゴールデンウィーク期間や市内小・中学校の秋休み期間に合わせて、例年実施している「石器づくり」・「糸玉・ミサ

地底の森ミュージアム

ンガづくり」・「森の妖精づくり」・「植物のしおりづくり」などのコーナーを設けた他、今年度は、「石器で穴あけ競争」・「ミニミニ石庖丁づくり（稲わら刈取り体験と脱穀体験も含む）」などを実施した。また、仙台工業高等学校模型部との連携企画「みんなでつくろう 氷河期の森！」や自主事業「ミュージアムフォトコンテスト」関連ワークショップ『「氷河期の森」撮影会』も実施している。

なお、昨年同様学生サポーターを募集し、サポーターの協力も得て実施した。

日時：GW 期間中 5月3日（水・祝）～7日（日）

10:30～12:00 13:00～15:00

秋休み期間中 10月7日（土）～8日（日）、10日（火）～11日（水）

10:30～12:00 13:00～15:00

会場：研修室・展望ラウンジ・地下展示室・野外展示「氷河期の森」他

対象：当日の入館者 参加者：計857人



手づくり工房★地底の森のようす

○古代米の稲わらで正月飾りづくり

体験教室で栽培した稲わらを活用し、「氷河期の森」の植物を利用して、正月飾りづくりを体験する事業を行い、古代米づくりの活動の紹介や古代米の販売を促進した。

日時：12月23日（土）

11:00～14:00までの30分毎に4回実施した。

会場：展望ラウンジ

対象：当日の入館者 参加者：計31人



古代米の稲わらで正月飾りづくりのようす

○ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2017～

事業団の自主事業として、都市化が進む太白区長町～山田地区において、より多くの市民に両館の野外展示について知って頂くことを目的に、過去の景観を復元している「氷河期の森」と「縄文の森」の植物や動物などを含む風景を撮影した写真を募集するフォトコンテストを開催した。

募集期間：5月2日（火）～12月17日（日）

応募者：71人

展示期間：1月16日（火）～3月11日（日）

投票期間：1月16日（火）～2月12日（月・祝）

表彰式：3月4日（日） 11:00～12:00

○冬キラ☆今日の主役は氷河期の森「たからさがしの森」

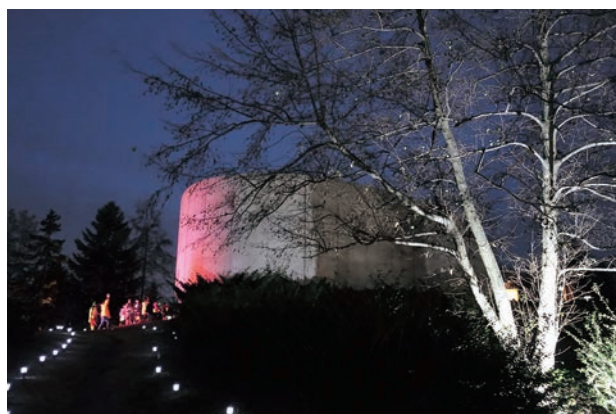
事業団の自主事業として、地域の方々が気楽に参加しやすい形で、野外展示「氷河期の森」の価値と魅力について楽しめるワークショップやライトアップ、ウドゥ（壺打楽器）の演奏会を行った。

日時：12月9日（土）・10日（日）

15:00～19:00

ライトアップは17:00～

・三原色の森（野外展示のライトアップと影絵）



ライトアップのようす

会場：展望ラウンジ・氷河期の森

参加者：82人(9日)・109人(10日)

・たからさがしの森(ワークショップ)

会場：研修室 参加者：104人(9日)・144人(10日)

・冬キラ☆カフェ

会場：展望ラウンジ

参加者：120人(9日)・160人(10日)

○森を育てる2017

事業団の自主事業として、野外展示「氷河期の森」を主な活動場所に、他の参加者と連携しながら「氷河期の森」及び自然環境を守る意欲を育てる事業として、植物や生き物の観察会などを実施した。平成30年3月に『地底の森ミュージアム「氷河期の森」・仙台市縄文の森広場「縄文の森」植物ガイド』を300部印刷した。

外来生物について①アメリカザリガニ

日時：9月16日(土) 10:00～12:00

講師：棟方 有宗氏(宮城教育大学)

会場：展望ラウンジ

参加者：13人

外来生物について②アメリカザリガニ

日時：10月1日(日) 10:00～12:00

講師：棟方 有宗氏(宮城教育大学)

会場：研修室

参加者：20人

植物の標本の作り方

日時：10月21日(土) 13:00～15:00

講師：米倉 浩司氏(東北大学植物園)

会場：野外展示「氷河期の森」

参加者：9人

野鳥の観察会

日時：3月21日(水・祝) 10:00～12:00

講師：石川 歩氏(スリーエム仙台市科学館)

会場：野外展示「氷河期の森」



森を育てる2017のようす

参加者：14人

○きみも富沢博士！～“かせき”ってなあに？～

SMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)のクロスイベントとして、当館・東北大学総合学術博物館・みちのく博物楽団が協力して、化石に興味関心を持ってもらうための講座とハンズオンのイベントを2回実施した。

日時：11月11日(土) 10:00～12:00

2月17日(土) 13:00～15:00

会場：研修室・展示室 参加者：計53人



化石ハンズオンのようす

○ミュージアムシアター「狩人登場」

事業団の自主事業として劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が先史時代の狩人に扮して館内外に登場した。ミュージアム・シアターは演劇の手法を通し、当館の展示をより理解してもらう目的で実施した。

開催期間：4月～3月

登場回数：40回



狩人登場(冬)

ii) 各種講座

○考古学講座

生涯学習事業の一環として、一般を対象に、最新の考古学の研究効果を取り上げる講座を2回実施した。

第1回 11月18日(土) 13:30～15:00

演題:「土器作りと調理からみた先史・古代の東北農耕社会」

講師:北野 博司氏(東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科 教授)

会場:研修室 参加者:27人



第1回考古学講座のようす

第2回 1月20日(土) 13:30～15:00

演題:「島国の心と暮らしの革命—縄文から弥生へ—」

講師:松木 武彦氏(国立歴史民俗博物館 教授)

会場:研修室 参加者:53人



第2回考古学講座のようす

○たのしい地底の森教室

ゴールデンウィーク期間中、特別企画展開催中、秋休み期間中及びイベント開催中を除き、当館をもっと楽しんでもらうためのミニ講座を月に2回程度実施した。内容は館長講座・石器使用体験・企画展の解説・野外展示植物見学会などの講座である。館長講座では館外において地域の歴史をたどるまち歩きもおこなった。

日時:毎月の日曜日のうち2回程度

13:30～14:30(まち歩きの際は15:00)

場所:地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・
野外展示「氷河期の森」他

対象:当日の入館者 参加者:計357人

iii) 市民文化財研究員

公募による8人を対象として、遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。学芸員による講義や各種体験、遺跡見学会を行ったほか、各自が設定したテーマをもとに、レポートを作成し、その成果は当館ホームページにて公開している。



市民文化財研究員活動のようす

iv) ボランティア活動

今年度のボランティア登録者は、昨年度からの継続者63人に、新規9人を加えて72人となった。活動内容は、来館者への展示解説や各種体験活動における補助、講座の会場準備などとなっている。1年間の解説活動の延べ実績は805人、2180.5時間、イベント活動の延べ実績は391人、1389時間であった。

また、スキルアップを目的として、2回のボランティア養成講座、1回の実技研修、見学会を実施した。

第1回養成講座

「郡山遺跡の最近の発掘調査状況」

日時:6月4日(日) 13:30～15:00

講師:及川 謙作氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場:研修室 参加者:38人



第1回養成講座のようす

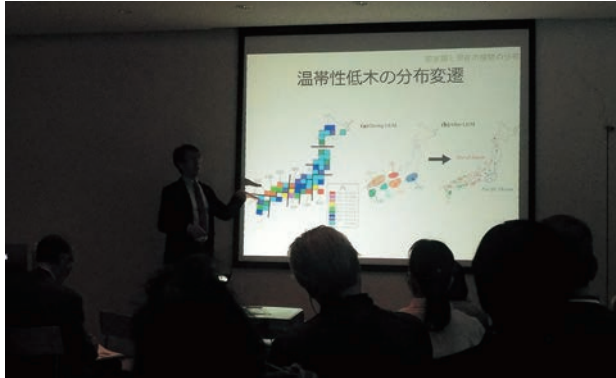
第2回養成講座

「氷河期が植物の分布に与えた影響」

日時：3月4日(日) 13:30～15:00

講師：牧 雅之氏(東北大学学術資源研究公開センター
教授・東北大学植物園園長)

会場：研修室 参加者：38人



2回養成講座のようす

実技研修

「縄文土器の文様～施文方法とその技術～」

日時：12月3日(日) 13:00～15:00

講師：菊地 逸夫氏(東北歴史博物館)

会場：研修室 参加者：32人

見学会「山形県鶴岡市(致道博物館・市内ガイド)」

期日：11月12日(日)8:00～17:00

縄文の森広場と合同で実施

参加者：両館ボランティア合計32人



見学会のようす

v) 運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・商業施設・市民センターなどの方々へ出席いただき、館の活動を広く紹介して理解と協力を得るため懇談会を実施した。第2回は、館職員が学校へ出向き、当館に対する意見や要望などを把握することを目的とし、聞き取り調査を実施した。これらの成果は、今後の当館運営及び事業に活かしていく。

第1回運営懇談会

日時：7月27日(木) 15:00～16:50

会場：展望ラウンジほか 出席者：18人

第2回運営懇談会(大野田小学校への聞き取り調査)

日時：3月1日(木) 10:30～12:00

調査先：大野田小学校 参加：3人

vi) ララガーデン夏休みイベント

ララガーデン長町で毎年行われている夏休みイベントに、仙台工業高等学校模型部との連携企画として「みんなでつくろう 氷河期の森！」を出店した。

日時：7月27日(木) 13:00～15:00

会場：ララガーデン長町3階キッズガーデン

対象：小学生までの子供30名 参加者：40名



イベントのようす

vii) 国際交流

東アジア考古学研究所より招聘を受け、大韓民国の京畿道漣川郡全谷里で5月2日～7日に行われた「第25回漣川旧石器祭」(教育博覧会・国際ワークショップ)に縄文の森広場職員と共に参加した。



漣川旧石器祭のようす

(3) 調査・研究事業

① 遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し、問題への対処などを検討するために、11月と1月に保存処理検討会を開催した。検討会には、猪股宏氏（東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センター）、米村祥央氏（東北芸術工科大学美術史・文化財保存修復学科）を招き、遺跡の現状と今後の方向性に関して指導を受けた。併せて、保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的として、樹木内部及び土壌の含水率などの分析調査を実施した。

② 研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し、これからの博物館運営に役立てることを目的として、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2017』を刊行した。平成29年2月18日・19日に、縄文の森広場開館10周年記念と合同で実施した開館20周年記念シンポジウム「まもりつたえる富沢遺跡・山田上ノ台遺跡—これまで／これからの20年・10年」の19日分の記録として刊行した。長島栄一氏（仙台市教育委員会文化財課）、國師洋之氏（鹿児島県上野原縄文の森）、小島秀彰氏（若狭三方縄文博物館）、村田弘之氏（黒耀石体験ミュージアム）、堀江格氏（じょーもびあ宮畑）、渡辺淑恵氏（天童市西沼田遺跡公園）、山田昌久氏（首都大学東京大学院人文科学研究科）、講師7名による講演記録を掲載した。

2. 施設管理

(1) 定例保守

建物・設備の保守点検を毎月1回、通年で実施した。

(2) 建物・設備などの修繕

地下展示室の音響の整備、映像機器（プロジェクター）の交換をおこなった。映像についてはこれまでレーザーディスクプレイヤーを使用していたが、ハードディスクに移行した。

また施設の一部で SENDAI Free Wi-Fi が使用できるように設備工事を行った。

3. 利用状況

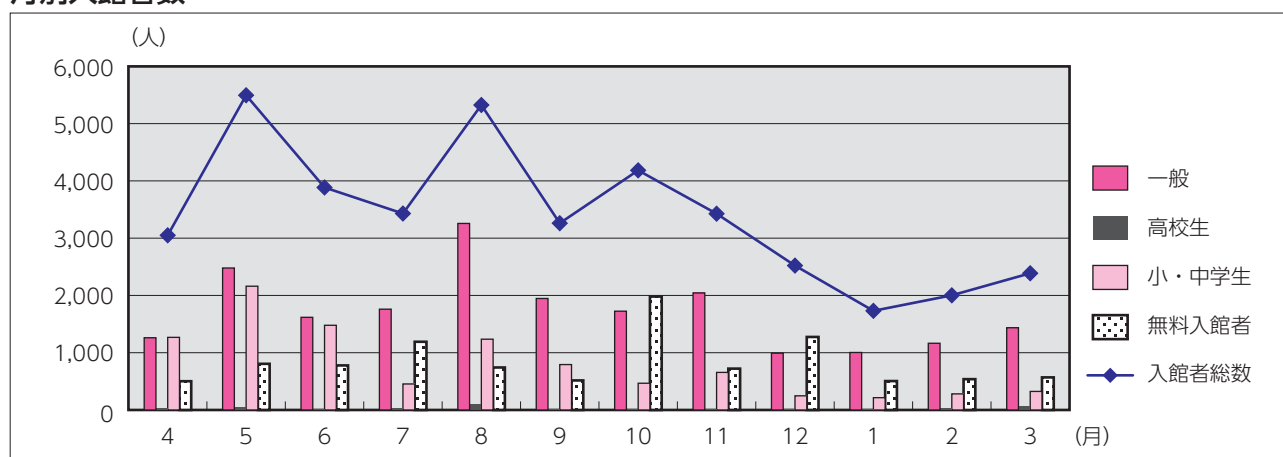
平成29年度の開館日数は295日で、その間の入場者数は、40,698人であった。前年度入場者数（48,930人）と比べ8,232人の減となった。秋期から冬期にかけての入館者数が前年度比80％程度で推移しており、開館20周年記念のシンポジウムなどの事業がなくなったことが1つの要因と考えられる。その一方で、昨年度に引き続き韓国の東アジア考古学研究所より全谷里遺跡を舞台に行われる旧石器祭への当館学芸員招聘、東北大学大学院文学研究科・東北大学総合学術博物館と共催した企画展など、当館活動について外部から高い関心と評価を得ることができた。また、近隣商店街主催の「長町まちかど教室」参加、商業施設ラガーデン長町の夏休み企画における、仙台工業高等学校模型部とのワークショップ協働、近隣町内会での講話など地域に根差し、活性化に貢献する館外活動と、そのための積極的な情報発信には、意識的に取り組んだ。

次に、平成29年度入館者の内訳を見ると、入館者全体に占める有料入館者の割合は51.3％で、その7割以上が一般、次いで小・中学生となっており、これは例年の傾向と変わりなかった。なお、平成8年11月2日の開館から平成30年3月31日までの総入場者数は878,605人である。

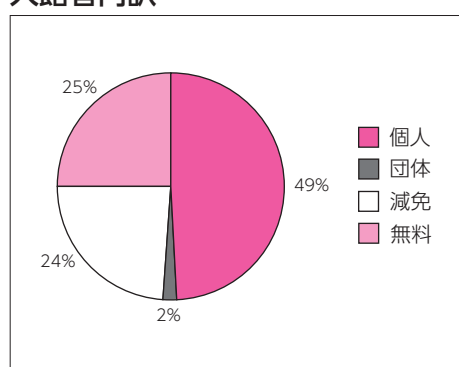
地底の森ミュージアム入館状況

月	有 料							無 料					合計
	個 人			団 体			小計	減 免			無 料 入館者	小計	
	一般	高校生	小・中学生	一般	高校生	小・中学生		一般	高校生	小・中学生			
4	1,058	19	331	9	0	80	1,497	194	0	857	502	1,553	3,050
5	2,052	23	622	21	26	87	2,831	406	0	1,452	806	2,664	5,495
6	1,349	10	809	34	0	46	2,248	235	0	624	778	1,637	3,885
7	1,511	19	148	0	0	0	1,678	249	6	306	1,191	1,752	3,430
8	2,771	90	487	4	0	0	3,352	482	0	749	742	1,973	5,325
9	1,639	5	290	70	0	38	2,042	238	0	465	516	1,219	3,261
10	1,318	11	86	76	0	105	1,596	331	0	276	1,981	2,588	4,184
11	1,203	6	77	116	0	0	1,402	724	0	579	722	2,025	3,427
12	845	7	30	0	0	0	882	147	0	217	1,275	1,639	2,521
1	853	7	52	0	0	0	912	151	0	163	505	819	1,731
2	997	18	23	30	0	0	1,068	138	0	258	538	934	2,002
3	1,194	34	102	1	0	31	1,362	241	24	191	569	1,025	2,387
計	16,790	249	3,057	361	26	387	20,870	3,536	30	6,137	10,125	19,828	40,698

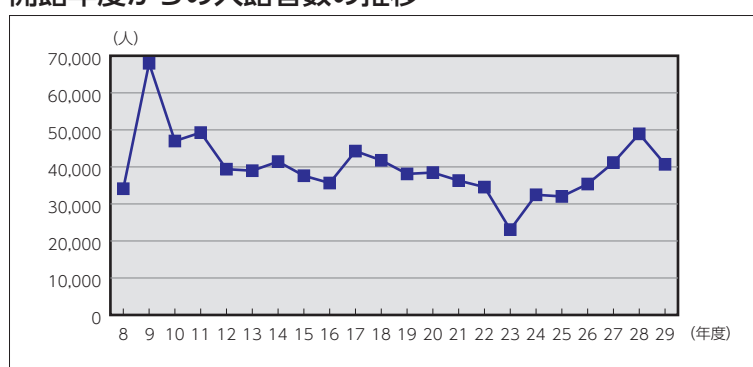
月別入館者数



入館者内訳



開館年度からの入館者数の推移



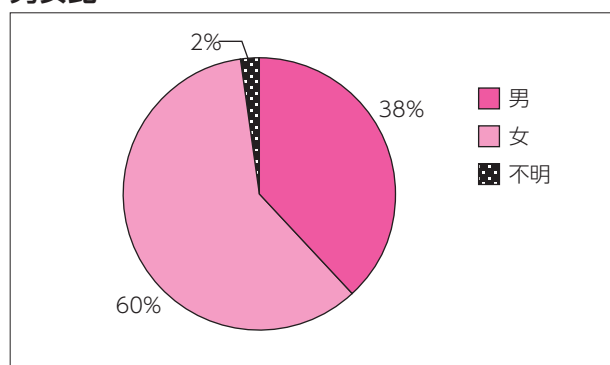
4. 入館者アンケート

例年、特別企画展の時期に集中的に実施してきたアンケートを、平成24年度からは常時所定の場所に設置し、毎日回収している。入館者からいただいた貴重なご意見・ご提案については、その要望や意見への回答と改善について検討を行い、『お客様の声へのお答え』として展望ラウンジに設置した掲示板にお知らせしている。同時に要望や改善

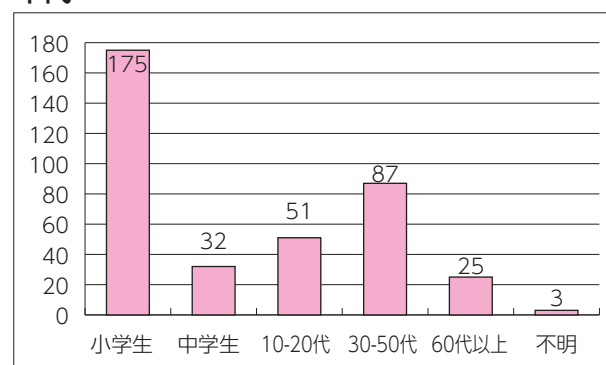
について、可能なものは迅速に対応するよう努めている。

平成29年度においても、当館のより望ましい運営のあり方を探るためにアンケート調査を実施し、374人の方から回答をいただいた。今後も継続してアンケート調査を行い、ご要望やご意見を当館の運営に反映させていきたいと考えている。

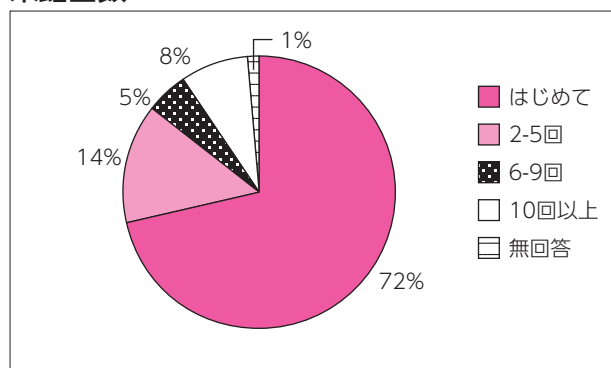
男女比



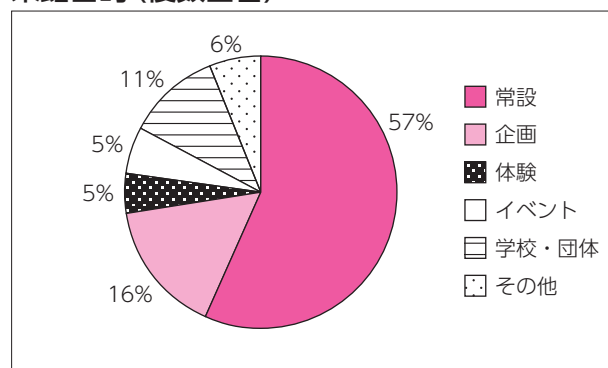
年代



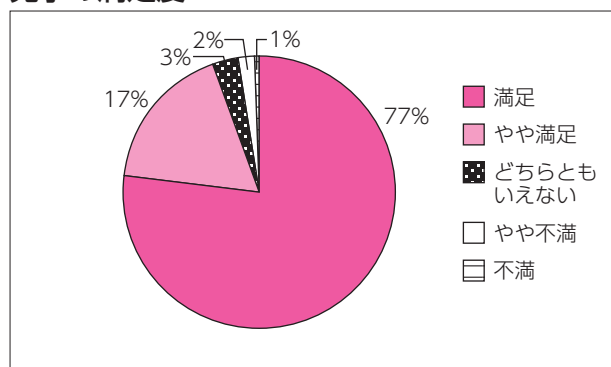
来館回数



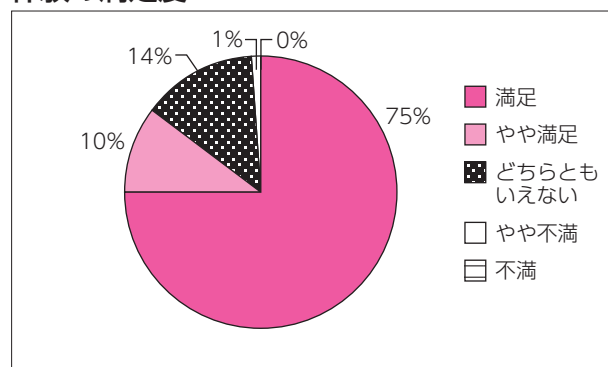
来館目的 (複数回答)



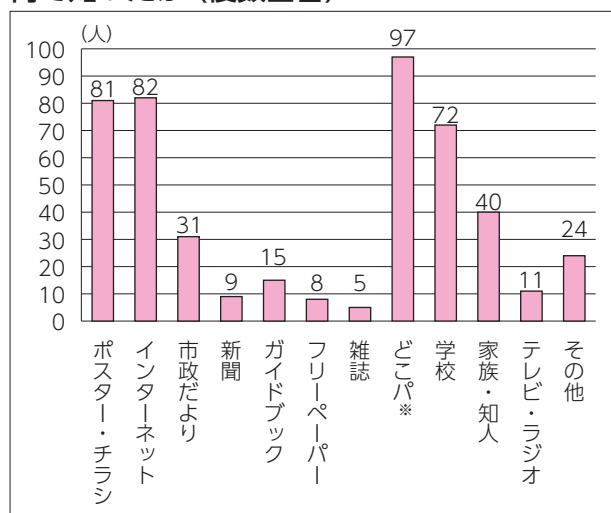
見学の満足度



体験の満足度



何で知ったか (複数回答)



※どこでもパスポート：仙台都市圏広域行政推進協議会発行。入館の際に提示すると小・中学生は県内の社会教育施設（一部を除く）を無料で利用できる。

5. 平成30年度事業計画

(1) 展示事業

① 常設展示

i) 常設展示1(地下展示室)

富沢遺跡の発掘調査面の展示

ii) 常設展示2(1階展示室)

出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示

iii) 野外展示

2万年前の植生を復元した「氷河期の森」

② 企画展示

◎特別企画展

「米づくりはじめました。」

○会期：7月20日(金)～9月24日(月・祝)

○内容：富沢遺跡では、これまで弥生時代から近世にかけての水田跡が数多く見つかってきました。その特徴を、弥生時代から古墳時代の東北地方で見つかった水田跡や農耕具とともに紹介し、人々が米づくりに込めた思いを探ります。

○関連行事

- ・記念講演会「米づくりがつなぐ アジア～日本～富沢」
日時：8月25日(土) 13:30～15:30(受付13:00～)
講師：田崎 博之氏(愛媛大学先端研究・学術推進機構 埋蔵文化財調査室 教授)

会場：太白区中央市民センター 3階大会議室

・ギャラリートーク

日時：8月18日(土) 14:00～15:00

講師：当館職員

・関連イベント「お米粘土ワークショップ」

日時：7月29日(日)・8月12日(日)・8月26日(日)・9月9日(日) 13:00～15:00

講師：当館職員

会場：展望ラウンジ

◎企画展

i) 第84回企画展

「一仙台の遺跡めぐりー古墳時代のはじまったころ」

○会期：4月20日(金)～6月17日(日)

○内容：大きなお墓をつくるようになった古墳時代の仙台平野では、どんな土器をつかってどんな暮らしをしていたのか、市内の遺跡を中心に紹介します。さらに昨年国史跡に指定されて話題になった、栗原市にある入の沢遺跡の資料も展示します。

○関連行事

- ・ギャラリートーク

日時：4月21日(土) 14:00～15:00

講師：当館職員

・関連講座「古墳時代のはじまったころの仙台」

日時：5月19日(土) 13:30～15:00

講師：工藤 哲司氏(仙台市教育局文化財課)

会場：研修室

ii) 第86回企画展

「カオの考古学」

○会期：10月26日(金)～12月16日(日)

○内容：土偶や埴輪、人面墨書土器など、さまざまな「カオ」が遺跡から見つかっています。昔の人々は「カオ」をどのように表し、そこにはどんな意味が込められていたのでしょうか。仙台市内の縄文時代の遺跡から出土した土偶を中心に紹介しながら、「カオ」の意味を探ります。後援は東北大学大学院文学研究科。

○関連行事

- ・ギャラリートーク

日時：10月27日(土) 14:00～15:00

講師：当館職員

- ・講演会「カオの心理学」

日時：12月1日(土) 13:30～15:30

講師：阿部 恒之氏(東北大学大学院 文学研究科心理学 講座 教授)

会場：研修室

iii) 第87回企画展

「もりの風景2018」・「ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2018～」作品展

○会期：1月16日(水)～3月10日(日)

○内容：地底の森ミュージアムの一年間の展示や体験教室などの活動とボランティア会の活動などを紹介する。あわせて、自主事業である「ミュージアムフォトコンテスト」の作品展を行う。

(2) 普及啓発事業

① 学校利用との連携

i) 利用学習(縄文の森広場と合同して実施)

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象とし、4月から12月までの期間に当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森広場の各種縄文体験による学習を行う。

ii) 職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて、4月から翌3月までの期間に職場体験活動を受け入れる。

iii) 博物館実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生，最大12人を受け入れ，実習を行う。

期日：11月27日(火)～12月1日(土)

iv) 教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として，当館の展示と学習活動を紹介し，学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月2日(木) 9:30～17:00

② 考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し，専門家による講座を連続2回実施する(縄文の森広場との連携事業)。

第1回考古学講座「赤井遺跡と矢本横穴墓群—古代陸奥国の大豪族 道嶋氏と牡鹿郡」

日時：11月24日(土) 13:30～15:00

会場：研修室

第2回考古学講座「東北地方の古代社会—境界の創出と境界を越える交流」

日時：1月26日(土) 13:30～15:00

会場：研修室

③ たのしい地底の森教室

富沢遺跡に関連する体験型の学習を中心に，その都度，各職員がテーマを設定する。できるだけ子どもが楽しめる内容とする(実施内容により申込み制もあり)。

日時：毎月第2・4日曜日 13:30～14:30

④ 体験コーナー「石器をつかってみよう」

学芸員やボランティア，石器づくり体験講座で製作した石器を使用して，型紙を切る体験を実施する。

毎週日曜日・祝日 13:00～15:00

⑤ 手づくり工房体験学習

春のゴールデンウィーク期間，秋休み期間に主に小中学生を対象として，石器づくり・編布アクセサリーづくり・「氷河期の森」の植物を利用したオリジナルグッズづくりなどの体験学習を実施する。

・ゴールデンウィーク期間中 5月3日(木・祝)～5日(土)
10:30～12:00 13:00～15:00

・秋休み期間中 10月7日(日)，9日(火)
10:30～12:00 13:00～15:00

⑥ 地底の森フェスタ2018

一般市民を対象として館西側の芝生広場を会場に，「やり投げ」・「石器づくり」・「編布服試着・小物づくり」などの体験活動や，石蒸し料理・複製土器で煮込んだ地底の森スープ・古代米おにぎりなどの試食を実施する(縄文の森広場との連携事業)。

日時：10月8日(月・祝) 10:00～15:00

⑦ 市民文化財研究員の育成

考古学に対する市民の学習活動を支援するため，公募した市民(定員10人)が研究員として一年間にわたり週1回館職員が講義や各種体験，遺跡見学会などの支援を行い，各自テーマを決定して自主学習して活動報告をまとめる。

⑧ ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び一般市民から募集し，展示解説や館行事の準備や補助を行うための研修事業である。さらにすでにボランティア登録している現ボランティアのスキルアップ研修も実施する(縄文の森広場との連携事業)。

i) 新規ボランティア養成講座

オリエンテーション：4月7日(土)

第1回：4月14日(土) 開講式など

第2回：4月28日(土)

第3回：5月12日(土)

第4回：5月26日(土)

第5回：6月16日(土)

第6回：7月1日(日)

ii) ボランティア養成講座

第1回：「入の沢遺跡について」

日時：6月3日(日) 13:30～15:00

第2回：「旧石器時代の人類について」(仮称)

日時：2月3日(日) 13:30～15:00

iii) ボランティア遺跡見学会(縄文の森広場との合同見学会)

日時：10月17日(水)，11月18日(日) 8:30～17:00

iv) ボランティア実技研修

「土器づくり」

日時：12月2日(日) 13:00～15:00

⑨ 地域や大学との連携

地域の行事やイベントには積極的に参加・協働し，周辺の学校や社会教育施設，並びに地域住民とともに地域文化の中核としての博物館をめざす。また市内大学と連携し，学生サポーターとの協働も進めていく。

i) 太白区民まつりへの参画 10月21日(日)

ii) 地域運営懇談会の開催 年2回(8月，2月)

iii) 冬キラ☆ 12月8日(土)・9日(日)

iv) 体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑩ インターネットおよび SNS による情報発信

企画展の開催や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため，ホームページを開設し，常時更新しながら情報発信する。またフェイスブックでの情報公開も行う。

⑪ 事業団の自主事業

i) 親子でつくろう古代米

市内外の小学校3年生以上とその保護者20組・約60人程度を対象として募集し，古代米の栽培・収穫を通して農

業の歴史を実体験して感じてもらう事業として5回の講座を実施する。

- ・第1回 5月12日(土)：オリエンテーション・田植え
- ・第2回 6月9日(土)：土器づくり
- ・第3回 7月28日(土)：石庖丁・かかしづくり
- ・第4回 9月22日(土)：稲刈り
- ・第5回 11月3日(土・祝)：収穫祭

関連イベントとして、12月22日(土)、入館者を対象に「古代米の稲わらで正月飾りづくり」を実施する。

ii)「ミュージアムフォトコンテスト～氷河期の森・縄文の森の風景2018～」

地底の森ミュージアムの野外展示「氷河期の森」と縄文の森広場の野外展示「縄文の森」の風景や動植物など、その魅力を表現した写真を、広く一般から募集する。

応募期間 5月2日(水)～12月16日(日)

iii)市民参画事業「森を育てる2018」

野外展示「氷河期の森」の植物や生き物の観察、アメリカザリガニの駆除などをとおして、参加者が連帯していのちの大切さ、「氷河期の森」及び市内の自然を守る意欲を育てる事業を実施する。

開催期間：8月～10月

iv)ミュージアム・シアター「狩人登場！」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が先史時代の狩人に扮し、館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う。

開催期間：5月～2月 40回程度

v)冬キラ☆今日の主役は氷河期の森

地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすい形で、野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

日時：12月8日(土)・9日(日) 両日15:00～19:00

iv)市民広報動画

親子を対象とし、野外展示「氷河期の森」の動画を撮影する。動画は当館のYouTubeで公開する。

日時：8月18日(土) 10:00～12:00

(3) 調査・研究事業

① 調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアなどによる考古学に関する調査研究活動及び研修活動の成果などを縄文の森広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

② 遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため、専門の大学の先生などから指導・助言をいただきながら、適正な保存・管理を行うために、遺跡保存処理検討会を2回実施する。また、

遺跡の状態を把握するための各種分析調査を実施する。

第1回保存処理検討会 11月22日(木) 15:00～17:00

第2回保存処理検討会 2月予定

③ 氷河期の森植生調査・植生検討会

野外展示「氷河期の森」の植栽の維持管理のため、植生検討会2回と植生調査を実施し、氷河期の森が適切に維持されているかを専門家の指導を受け、補植などを実施する。また、植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し、植物の構成樹種の相異を活かした、2つの異なる森づくりとその利活用を行っている。

第1回植生検討会：

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

5月25日(金) 13:00～17:00

第2回植生検討会：

地底の森ミュージアム・縄文の森広場

11月16日(金) 13:00～17:00

植生調査・景観調査 6～12月

(4) 縄文の森広場との連携事業

- ・縄文春まつり 5月13日(日)
- ・縄文夏まつり 7月16日(月・祝)
- ・縄文秋まつり 10月6日(土)
- ・地底の森フェスタ2018 10月8日(月・祝)
- ・縄文冬まつり 2月3日(日)

(5) 資料の収蔵

① 常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

② 保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書、購入図書、企画展実施のために製作した資料、寄贈資料などを収蔵する。

(6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年4回
- ②企画展刊行物(展示図録, ポスター, チラシ)
- ③年報(縄文の森広場と合本)
- ④調査研究報告書(縄文の森広場と合本)
- ⑤リーフレット, パンフレット

利用案内

1 所在地

〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1

2 電話およびファクシミリ

T E L 022 (246) 9153 F A X 022 (246) 9158

3 開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

4 入館料・共通券

市民利用施設使用料の見直しにより平成28年10月1日より入館料・共通券が下記のとおり改訂となった。

区 分	個人	団体	共通入場券
一般	460円	360円	490円
高校生	230円	180円	280円
小・中学生	110円	90円	150円

- ・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

5 休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日, 土・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

くん蒸のため臨時休館(12月25日～12月27日)

年末年始(12月28日～1月4日)

6 交通案内

- ・地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
- ・JR 東北本線長町駅より西へ徒歩約20分
- ・東北自動車道 仙台南インターより東へ約7km

E-mail:t-forest@coral.ocn.ne.jp

URL:<http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/>



[仙台市縄文の森広場]

1. 平成29年度事業報告

(1) 展示事業

① 常設展示

○エントランスホール

当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ、当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルで展示している。壁面にある展示ケースでは、体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など、定期的に展示内容を変更している。平成29年12月1日(金)～平成30年2月28日(水)は、戌年にちなんで戌形土製品をプレゼントする企画を行い、さらにその展示も行った。期間中、プレゼントを受け取られたお客様(期間内に2回展示室見学・体験した方、もしくは戌年生まれの方)は合計99人であった。

展示ケース横では、麻製の服やバンダナなどの装飾品を来館者が自由に試着できる縄文ファッションコーナーを用意している。当館ボランティア製作の編布服や複式炉模型の展示や、オリジナルグッズの販売も行っている。

○ガイダンス展示室

<体験導入室1>「展示1 縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について、各種パネルや出土資料の展示などをとおして紹介している。床面には復元住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理、調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。



縄文ムラを発掘する

<体験導入室2>「展示2 縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現しているほか、模型を覗くスコープによって縄文時代の生活のようすを映像で紹介している。

・縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように、パソコンや関連図書を整備している。くわえて縄文時代に食べられ

ていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示、紹介している。



縄文学ラウンジ

・縄文土器 年表&パズル

約12,000年間続いた縄文時代の、時期ごとの土器型式の違いを、仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルと、3つの代表的な型式をもとに復元した土器の立体パズルを展示している。

・縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと、花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか、モニター展示している。

・土器、石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡から分かること、石器の用途などを紹介している。

<体験導入室3>「展示3 縄文ムラのくらしが見える」

・縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部のようすを模型で紹介して、土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。



竪穴住居の模型

② 企画展示

今年度は「仙山交流」をテーマに宮城県と山形県内の遺跡を交互に展示し、縄文時代の人々の生活などを写真パネルや出土遺物を中心に紹介する目的で3回実施した。

i) 春のコーナー展示

「仙山交流 in 仙台一沼遺跡と出土遺物」

○会期：4月21日(金)～6月11日(日)

○開催日数及び入館者数：43日間 5,357人

○展示内容：仙台市泉区にある沼遺跡に焦点をあてて展示を行った。七北田川の河岸段丘から約4,000年前の縄文時代中期末の集落跡が発見され、竪穴住居跡の写真パネルと出土した遺物などを紹介した。

○展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル、出土した縄文土器、石器などを展示した。



展示風景

ii) 夏秋のコーナー展示

「仙山交流 in 高島一押出遺跡と出土遺物」

○会期：7月15日(金)～10月22日(日)

○開催日数及び入館者数：54日間 6,700人

○展示内容：山形県東置賜郡高島町に所在する5,500年前の縄文時代前期末の大きなムラの押出遺跡から出土した住居跡や縄文土器や石器などに焦点をあてて展示し、山形県内の縄文遺跡の理解を深めてもらうことを目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡位置図及び遺跡紹介文字パネル、遺跡や遺物の写真パネル紹介。押出遺跡出土の遺物などを展示した。



展示風景

iii) 冬のコーナー展示

「仙山交流 in 七ヶ浜」

○会期：12月1日(金)～2月4日(日)

○開催日数及び入館者数：48日間 2,158人

○展示内容：県内を代表する縄文時代の遺跡である国史跡・大木岡貝塚を中心に、同町二月田貝塚の資料を紹介した。特に、近年調査の行われた最新の情報を市民に知ってもらうことを主な目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネル、フォトフレームでの調査時の写真のスライドショー上映なども行った。



展示風景

③ 野外展示

i 縄文ムラと広場

野外には、竪穴住居を復元し、その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと、植物栽培などを行う広場ゾーンがある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し、縄文時代の環境を含めて、集落を再現している。



縄文ムラの環境の復元

・縄文ムラ（野外展示の東半部）

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴、落とし穴などが多数見つかり、各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁辺に沿って造られている。野外の東側には同時期に建っていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し、また周囲には貯蔵穴や落とし穴、ゴミ捨て場などの遺構を表示し、縄文時代のムラのような様子を再現している。

・復元住居について

3棟の竪穴住居の復元については、いずれもクリ材で骨組みを造り、土屋根タイプの構造を採用している。その中の14号住居はガイダンス展示室内にも一部を復元している。14号住居は地面を円形に掘り凹めて平らな床をつく

り、8本の柱を立て、屋根は土で葺いた竪穴住居である。入口にあたる床の南側には、小石で囲まれた土器と大きな河原石の石組みからできた複式炉と呼ばれる大きな炉がある。

・ 広場（野外展示の西半部）

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は、野外での縄文体験やイベント、縄文人が育てていた作物の栽培、体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。



14号復元住居（左）と9号復元住居（右）

ii 植生

野外にはムラや広場とともに、縄文時代の森のようすを推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で、縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考にして、高木はクリ、クルミ、トチ、コナラなど、低木はタラノキ、ガマズミ、ミズキ、ニワトコなど、草本ではササ、チガヤ、キキョウなどを植栽している。また、「植生検討会」での指導・助言を受けて、森の維持管理・充実を図っている。



植生の復元

iii 縄文畑

野外広場の北西部には、縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ソバの他に、ヒョウタン、アケビ、ヤマブドウ、カラムシなどを育てている。



縄文畑



蔓植物栽培棚

(2) 普及啓発事業

① 夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな縄文時代の体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め、縄文人の生活のようすや知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし・木の実のすり潰し・縄文風クッキーづくりなど親子で楽しめるメニューとした体験活動を行った。

○8月20日（日）10:00～14:00

参加者：11組29人



火おこし体験



縄文風クッキーづくり

② 長期休暇特別イベント

より多くの市民に縄文の森広場に興味関心を持ってもらうことを目的とし、市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動メニューを無料で実施した。

○春休み特別イベント

4月2日(日)

参加者：90人

石のストラップをつくろう

○夏休み特別イベント

8月5日(土)～7日(月)

参加者：延べ68人

クルミスタンプで縄文風カードをつくろう、七夕短冊にベンガラで願い事をかこう

○冬休み特別イベント

1月6日(土)～8日(月・祝)

参加者：延べ143人

ミニコマをつくってあそぼう！

○春休み特別イベント

3月25日(日)

参加者：46人

縄文風のカード・しおりをつくろう



春休み特別イベント

③ 発掘体験教室

縄文人が生活していた時代の土に触れ、遺構や遺物を発見するなどの発掘体験を通して、歴史や当時の生活に興味を持ってもらうことをねらいとした。昨年度に引き続き、

遺物包含層を調査対象として仙台市教育委員会文化財課が調査を実施した。期間中の10月14日(土)に小学5年生以上を対象とした発掘体験教室を実施した。体験時間を午前中とし、午後は希望者のみの参加とした。

講師…文化財課職員・当館職員

時間…10:00～12:00

○10月11日(水) 雨天のため中止

○10月14日(土) 参加者：58人(文化財サポーター含む)



発掘体験教室

④ 発掘資料整理体験教室

山田上ノ台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ、歴史を身近に感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような洗浄や拓本取りの作業体験が主な内容であり、1回実施した。

講師…当館職員

時間…10:00～14:00

○11月25日(土)

参加者：3人



資料整理体験

⑤ 縄文の知恵と技を学ぶ

縄文時代について、本格的な体験を通して学ぶ機会として計4回、「石器づくり」「カラフルなガラスでやじりづくり」「How to 火起し」を実施した。

○石器づくり講座

日時：9月9日(土) 10:00～12:00

参加者：10人

○How to 火起し講座

日時：10月28日(土) 10:00～12:00

参加者：14人

日時：12月3日(日) 10:00～12:00

参加者：20人

○カラフルなガラスでやじりづくり講座

日時：11月11日(土) 10:00～12:00

参加者：10人



How to 火起し



石器づくり

⑥ 週末体験講座

火おこしや石器などによる調理体験を主体に竪穴住居周辺や工房を主会場とした「縄文生活体験」や季節感を活かしたさまざまな縄文体験を実施した。各回定員を一般20人とし、事前申込み制で行った。今年度は7回の実施とした。

参加者アンケートによる満足度はどの回も高く、縄文時代に興味関心を持っていただくきっかけとなったことがうかがえた。

①6月24日(土) 16:00～19:30

「縄文生活体験」 参加者：24人

②7月22日(土) 16:00～19:30

「縄文生活体験」 参加者：23人

③8月26日(土) 16:00～19:30

「縄文生活体験」 参加者：12人

④9月16日(土) 15:00～18:30

「縄文生活体験」 参加者：12人

⑤11月19日(日) 10:00～14:00

「干支の土製品をつくろう！」 参加者：14人

⑥1月27日(土) 10:00～12:00

「ドングリ料理をつくろう！」 参加者：15人

⑦3月10日(土) 10:00～15:00

「縄文人の道具箱ーシカの骨ー」 参加者：10人



縄文生活体験



ドングリ料理をつくろう！

⑦ 縄文講座

多様な視点から、縄文時代についての理解を深めることを目的とした講座で3回実施した。

○第1回：「七ヶ浜町の縄文発掘最前線」

・日時：12月17日(日) 13:30～15:00

参加者：62人

・講師：田村 正樹氏(宮城県七ヶ浜町歴史資料館)

○第2回：「あざやかによみがえった6,000年前の縄文文化ー富山県小竹貝塚の発掘！」

・日時：1月21日(日) 13:30～15:00

参加者：59人

・講師：町田 賢一氏(公財・富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所)

○第3回：「有明海に沈んだまぼろしの縄文文化ー佐賀県東名遺跡の発掘！」

・日時：2月18日(日) 13:30～15:00

参加者：86人

・講師：西田 巖氏(佐賀市教育委員会)



第3回縄文講座

⑧ 縄文まつり

本事業では季節ごとに特色ある縄文まつりを4回開催した。特別体験、ゲーム、縄文食試食などの様々な体験活動を中心として実施した。コンサートタイムでは、市民サークルや市内小・中学校の吹奏楽部、プロの音楽家らが演奏を披露した。

○縄文春まつり

・5月14日(日) 10:00～15:00

参加者：390人

・内容：みんなで大きな火おこし体験、縄文スープ試食、縄文ゲーム、工作体験、縄文ファッション、縄文スタンプラリー、地底の森ミュージアムコーナー、「Sonido del Viento」による演奏など。



みんなで大きな火おこし体験



地底の森ミュージアムコーナー

○縄文夏まつり

・7月17日(月・祝) 10:00～15:00

参加者：744人

・内容：カラムシから糸づくり、貝のアクセサリーづくり、縄文風おやつの試食、「仙台市立人來田小学校 brass band」・「仙台市立金剛沢小学校合唱団」・「仙台市立富沢小学校あおぞら合唱団」・「仙台市立富沢小学校和太鼓クラブ 子すずめ楽鼓クラブ」・「高橋泉と縄文ジャズオーケストラ」による演奏など。



カラムシから糸づくり



仙台市立金剛沢小学校合唱団



仙台市立富沢小学校和太鼓クラブ 子すずめ楽鼓クラブ

○縄文秋まつり

・10月7日(土) 10:00～15:00

参加者：126人

・内容：火おこし大会、つくって！縄文、工作体験、秋の縄文スープ試食、縄文ファッション、地底の森ミュージアムコーナーなど



火おこし大会



工作体験

○縄文冬まつり

・2月4日(日) 10:00～15:00

参加者：354人

・縄文人の冬のくらしコーナー、縄文スーパの試食、お絵かき・紙工作、地底の森ミュージアムコーナー、「上野山



オカリナ縄文会



上野山小若杉バンド

小若杉バンド」・「オカリナ縄文会」による演奏、「あめんぼの会」「上野山小学校土曜図書員会」による読み聞かせや紙芝居など。

⑨ 縄文のまつり復元と創造プロジェクト

事業団の自主事業で、市民と協働で縄文時代のまつりを復元・創造するプロジェクト。平成20年度から楽器製作などの活動を行ってきており、今年度は6月24日(土)～10月14日(土)にかけて10回行い、延べ150人が参加された。

この事業は8月11日(金・祝)と・12日(土)の2日間にわたり、「草舟づくり」を行い、さらに、その成果の報告として10月21日(土)に縄文の森広場を会場として「縄文人の記憶の宴」を実施した。

○草舟づくり

探検家石川仁氏とNPO笹舟などの協力を得て「草舟づくり」を実施し、広瀬川に浮かべて乗船体験を行った。

・日時 ①8月11日(金・祝) 9:00～16:00

②8月12日(土) 9:00～15:00

・会場：広瀬川宮沢橋緑地公園

参加者：延べ75人

○縄文人の記憶の宴

i) 記念講演会(第1部)

第1部は長田友也氏(中部大学)による「山田上ノ台の『まつり』を考える!!」をテーマにご講演いただき、山田上ノ台発掘調査現場の見学を実施した。

・日時：10月21日(土) 13:30～15:00

参加者：38人

ii) 「縄文人の記憶の宴」(第2部)

第2部は、縄文時代のまつりを、市民や音楽家、劇団員などと協働して、企画・運営を行い、「火おこし」・「縄文風の演奏」・「祀りの儀式」・草舟を燃やし「炎の儀式」・「舞の儀式」を発表する行うイベントを実施した。

・日時：10月21日(土) 16:00～18:00

参加者：169人



縄文人の記憶の宴のようす

⑩ 学校・地域連携促進事業

事業団の自主事業で、山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで、縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的とする事業である。

i) 「ドキ土器チョコレート」

山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらうため、ミニチュアサイズのシリコン型にチョコレートを流しこんで、土器チョコをつくるイベントを実施した。

・日時 2月12日(月・祝)

①10:00～12:00 ②13:00～15:00

・参加者：6組15人

ii) 「土器を食べちゃえ！～土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう～」

山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて、山田上ノ台遺跡及び縄文文化について学ぶイベントを外部講師を招いて実施した。

・日時：2月24日(土) 9:30～12:00

・講師：下島 綾美氏(お菓子作り考古学者ヤミラ)

・対象：上野山児童館利用小学生の親子

・参加者：7組16人



ドキ土器チョコレート



ドッキーをつくろう！

⑪ 野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつくる『じょうもん』」

事業団の自主事業で、縄文時代の植生を復元した野外展示を、地域住民や学校と共につくりあげることが目的とした事業で、近隣の太白小学校1年生を対象として、太白山自然観察の森でクリやウリハダカエデなどの種を採取し、植え付けを行った。

・日時：10月3日(火) 10:00～12:30

・会場：太白山自然観察の森

・講師：太白山自然観察の森職員

・対象：太白小学校1年生

・参加者：56名

⑫ 3館連携事業

平成26年度から縄文の森広場・山田市民センター・上野山児童館の3館が共催としている事業である。縄文時代の生活体験を通して、山田上ノ台遺跡周辺の自然と歴史に親しみながら、学区を超えた子供同士の交流を図り、地域活動をしていくことを目的としている。

・「火おこしをして、縄文スープを作ろう」

・日時：9月2日(土) 10:00～12:30

・参加者：6組13人



3館連携事業の火おこし体験

⑬ 運営懇談会

当館の活動を紹介し、地域の町内会や小・中学校、市民センターなどの方々の意見をいただき、事業に反映させるために運営懇談会を2回開催した。

第1回 7月29日(金) 19人出席

第2回 2月15日(水) 18人出席

(3) 体験活動事業

① 各種体験活動

i) 随時体験

当施設の特徴の一つが、来館者が予約なしでいつでもメニューを選んで実施できる随時体験である。体験は春～秋

にかけては屋外の屋根付体験工房で、冬は一部の体験を除いて室内の体験活動室で行っている。今年度は昨年度に引き続き全18種類の体験メニューを用意した。

体験内容は、土器づくり(特大・大・小)、土偶づくり(大・小)、手形・足形づくり、土笛づくり、土面づくり、勾玉づくり、石のアクセサリーづくり、シカの角・サメの歯のアクセサリーづくり、編布コースター・マットづくり、釣針づくり、火おこし体験、石器づくり(5年生以上対象)などである。勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、粘土に関する体験の人気の変わらず高いが、昨年度につづき、シカの角・サメの歯のアクセサリーづくりの体験者の増加がみられる。



随時体験

ii) 団体の予約体験

平成29年度は163組の団体から見学・体験の申込みがあり、延べ人数は5,794人である。団体の内訳は市内の小学校を中心に、県外の小・中学校や子供会、デイサービスセンターなどである。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくりの人気の変わらず高い。中学校の自主研修や県外の修学旅行での利用も多い。

iii) 出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行った。今年度は高砂小学校や市民センターなど10団体に対応した。

iv) 国際交流

東アジア考古学研究所より招聘を受け、大韓民国の京畿道漣川郡全谷里で5月2日～7日に行われた「第25回漣川旧石器祭」(教育博覧会・国際ワークショップ)に地底の森ミュージアム職員と共に参加した。

② 学校教育との連携

i) 小・中学生の利用

学校の授業の一環として、地底の森ミュージアム及び当館が交通費(バス代)を負担し、体験活動と展示見学を組み

合わせた学習活動を行う利用学習事業には、市内33の小学校2,368人の参加があった。開館以来継続して実施してきた利用学習事業が徐々に周知され、さらに平成23年度より新学習指導要領を意識した、学校側の授業形態の変化が理由と考えられる。本事業の詳細は当館ホームページ上にて公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。

そのほか、社会科や総合的な学習の時間、社会見学など様々な目的で、市内及び県内の学校利用が多数みられた。最近では自主研修(班別)で、福島の小中学校の利用が目立つ。修学旅行では秋田・岩手・山形県の小・中学校の利用が増えてきた。勾玉づくりなどの縄文体験を中心とした利用が目立っており、体験活動を重視する当館らしい利用法が選ばれている。



利用学習

ii) 博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として、学芸員資格取得のための実習を10月7日(土)～11日(水)に行った。館運営に関する講座のほか、縄文秋まつりの準備と実施、発掘体験教室の準備と実施、体験活動の指導法などの実習を行った。

参加者：宮城学院女子大学 学生1人

iii) 教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として、8月4日(金)に市内小学校教員13人の参加があり、当館の展示内容および体験活動の紹介と研修を行った。

iv) 職場体験活動

8月と11月に市内中学校4校から職場体験の申し込みがあり、対応した。当館の勤務内容を体験するとともに、事業内容などについても説明を行った。これまで来館者の立場で当館を利用した生徒もあり、職員にとっても来館者の生の声を聴くことのできる貴重な機会となった。

参加者：人來田中学校3人、山田中学校3人、柳生中学校4人、西多賀中学校4人

(4) ボランティア活動事業

① ボランティア育成講座

平成29年度のボランティア育成講座に応募した4人を対象に計6回の講座を開催した。内容はボランティア活動の内容、体験活動の技術研修、類似する他施設の視察などである。既登録ボランティアスタッフのスキルアップ研修も兼ねており、積極的な参加を呼びかけた。また、類似施設の視察研修については、地底の森ミュージアムと連携して行い、両館のボランティアが交流する機会とした。

第1回4月9日(日) 10:00～12:00[参加者：4人]

オリエンテーション・施設見学・縄文時代概説

講師：館職員

第2回4月30日(日) 10:00～15:00[参加者：7人]

土器・土製品づくり 講師：館職員

第3回5月21日(日) 9:00～15:00[参加者：4人]

野焼き・火おこし 講師：館職員

第4回6月4日(日) 10:00～12:00[参加者：4人]

勾玉・石のアクセサリーづくり 講師：館職員

第5回6月25日(日) 13:00～16:00[参加者：4人]

修了式・ボランティア活動の実際・定例会

講師：ボランティアスタッフ・館職員

第6回10月18日(水) 8:00～17:00

[参加者：両館合計27人]

発掘調査の視察研修(山形県遊佐町野田遺跡ほか)

地底の森ミュージアムと合同で実施



ボランティア視察研修

② ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は、当館の運営をあらゆる面で支えて下さるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され、平成29年度は当館ボランティア71人が会員となった。

館と会との連絡・調整は、毎月第4日曜日に行われる定例会を中心に行っている。ここでは、館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら、サポート体制の構築を行っている。

会の中では、ボランティア各自が興味関心のあるテーマごとに班を作り、研修を行っている。編布班では縄文服の製作、土器班では粘土づくりに取り組むなどの活動が見られる。そのほかの活動として、ミュージアムグッズの製作が挙げられる。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており、修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。

以上のような、多岐にわたるボランティア会のさまざまな活動は、当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を、今後より多方面に展開し、強化していきたい。

(5) 調査・研究事業

① 体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって、新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な要件である。既存体験メニューの見直し、体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法、および新規プログラムの開発に取り組んだ。

② 復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を、より良好な状態で維持管理する方法について検討を行った。

③ ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代および当館の管理運営に関わる様々な内容について、ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

④ 調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2017』を発刊した。内容は「地底の森ミュージアム開館20周年・縄文の森広場開館10周年記念シンポジウム「まもりつたえる富沢遺跡・山田上ノ台遺跡—これまで／これからの20年・10年」」の平成29年2月19日に実施した講演の記録を収録した。

2. 利用状況

平成29年度の開館日数は297日で、その間の全利用者数は30,098人であった。前年度の29,362人に比較すると、736人増となっている。

体験活動者数は13,676人(団体の複数体験者も含む)で、全利用者数の47%を占めており、例年とほぼ同様の傾向

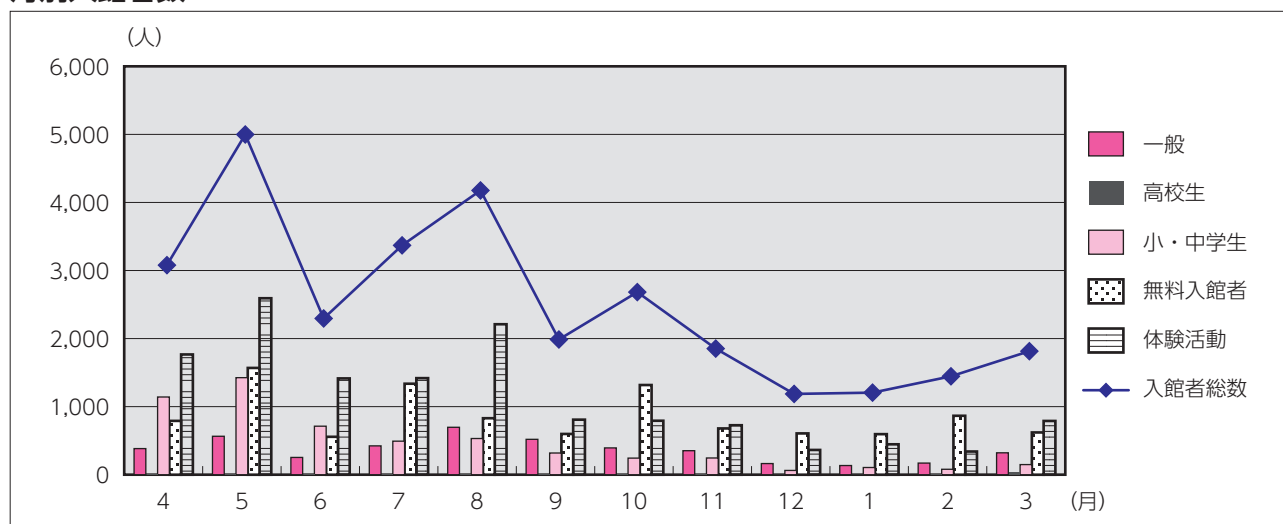
であった。体験活動内容では勾玉づくりが全体の29%を占めて最も多く、続いて石のアクセサリーづくり25%、ミニ土偶づくり16%と続く。

なお、平成18年7月15日の開館から平成30年3月31日までの入館者の累計は367,216人である。

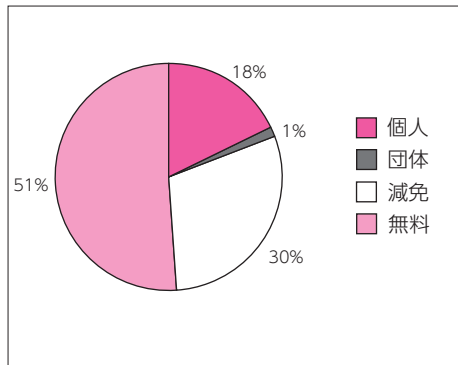
仙台市縄文の森広場入館状況

月	有 料							無 料					体験活動者		合計
	個 人			団 体			計	減免			無料入館	計	内、団体体験重複者(-)		
	一般	高校生	小・中学	一般	高校生	小・中学		一般	高校生	小・中学					
4	280	4	34	3	0	59	380	101	0	1,049	791	1,941	1,767	1,009	3,079
5	387	10	97	5	0	72	571	173	0	1,257	1,569	2,999	2,593	1,164	4,999
6	164	1	119	6	0	63	353	84	0	531	557	1,172	1,415	644	2,296
7	270	0	39	0	0	0	309	154	6	454	1,337	1,951	1,419	309	3,370
8	530	12	142	4	0	1	689	163	0	389	830	1,382	2,211	105	4,177
9	406	1	45	4	0	38	494	110	0	236	599	945	809	261	1,987
10	274	1	22	26	0	0	323	94	0	222	1,318	1,634	793	67	2,683
11	146	1	0	1	0	0	148	206	0	246	680	1,132	727	154	1,853
12	133	0	8	1	0	0	142	30	0	55	607	692	364	11	1,187
1	99	0	5	0	0	0	104	36	0	101	596	733	447	78	1,206
2	128	2	8	0	0	0	138	43	0	72	866	981	341	14	1,446
3	234	6	26	2	0	29	297	86	24	94	621	825	790	97	1,815
計	3,051	38	545	52	0	262	3,948	1,280	30	4,706	10,371	16,387	13,676	3,913	30,098

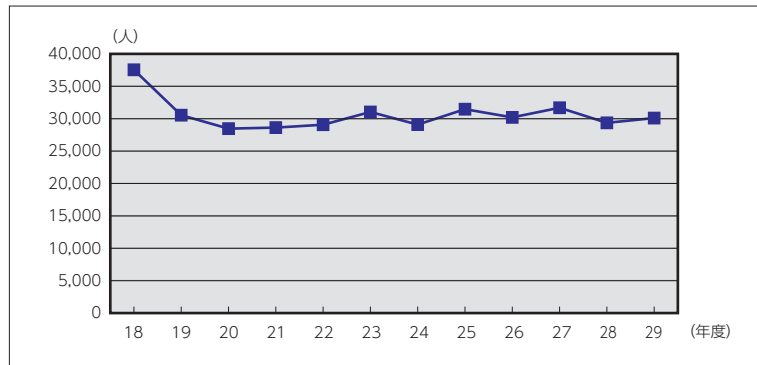
月別入館者数



入館者内訳



開館年度からの入場者推移

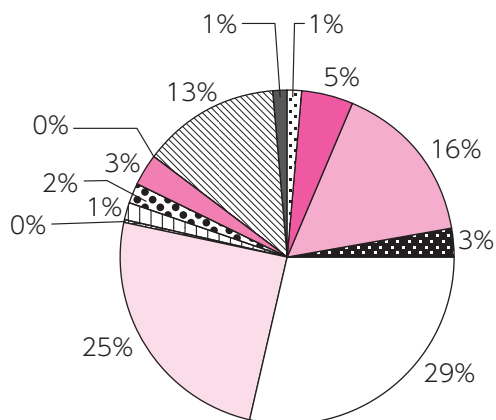


体験活動者数

(団体の複数体験も含む)

(単位：人)

月	体験メニュー													合計
	縄文土器づくり	土笛・土偶づくり	ミニ土製品づくり	石器づくり	勾玉づくり	石のアクセサリーづくり	釣針づくり	サメの歯アクセサリーづくり	シカの角アクセサリーづくり	編布づくり(コースター)	編布づくり(マット)	火おこし	体験講座	
4	17	17	425	43	366	619	10	22	29	46	4	236	0	1,834
5	59	298	320	99	845	737	2	30	35	31	0	229	0	2,685
6	22	16	248	21	506	490	0	8	13	36	0	116	24	1,500
7	92	182	182	52	536	215	0	16	15	27	2	169	23	1,511
8	12	58	308	75	671	435	7	80	59	75	3	476	41	2,300
9	4	9	110	20	149	212	0	16	14	40	0	214	21	809
10	5	14	147	11	337	90	1	25	26	24	2	97	14	793
11	9	18	131	19	131	268	0	7	12	54	0	95	25	769
12	4	4	69	3	70	83	2	9	16	22	0	62	20	364
1	3	7	144	4	86	105	3	13	10	21	0	51	0	447
2	0	21	56	11	122	64	0	2	8	13	2	42	0	341
3	4	29	129	20	234	176	6	28	20	40	1	103	0	790
計	231	673	2,269	378	4,053	3,494	31	256	257	429	14	1,890	168	14,143



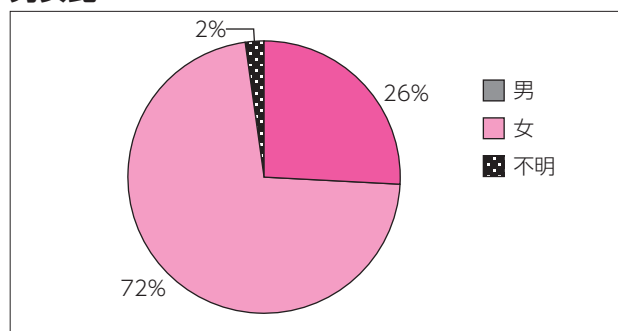
- 縄文土器づくり
- 土笛・土偶づくり
- ミニ土製品づくり
- 石器づくり
- 勾玉づくり
- 石のアクセサリーづくり
- 釣針づくり
- サメの歯アクセサリーづくり
- シカの角アクセサリーづくり
- 編布づくり(コースター)
- 編布づくり(マット)
- 火おこし
- 体験講座

3. 入館者アンケート

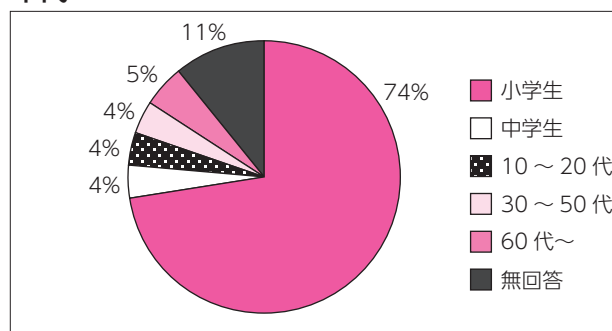
開館直後より1階の体験工房（冬期は体験活動室）と2階の展望休憩室の2箇所に、今後のより望ましい運営のあり方を探るために入館者アンケート用紙を設置しており、平成29年4月から3月末までに総数70人の方に回答をいただいた。約7割は小学生であり、その他の大人の方々も含

めて、貴重なご意見やご提案を多数お寄せいただいた。その中には、2階の展望休憩室に設けた「お答えしますコーナー」で回答し、館運営にすぐ取り入れさせていただいたものもある。その他のご意見も今後の改善にできるだけ反映させていきたいと考えている。

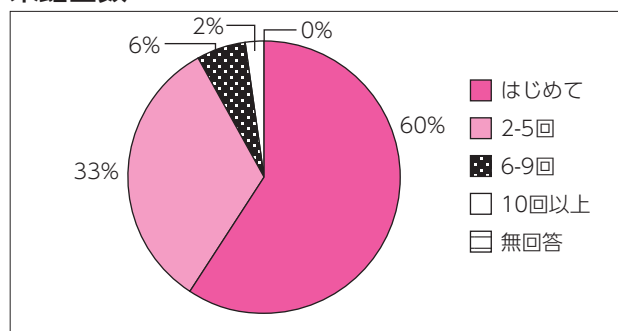
男女比



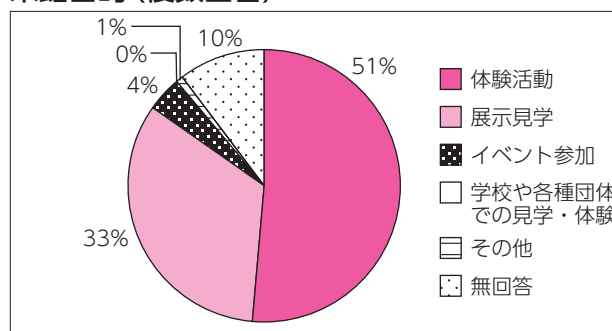
年代



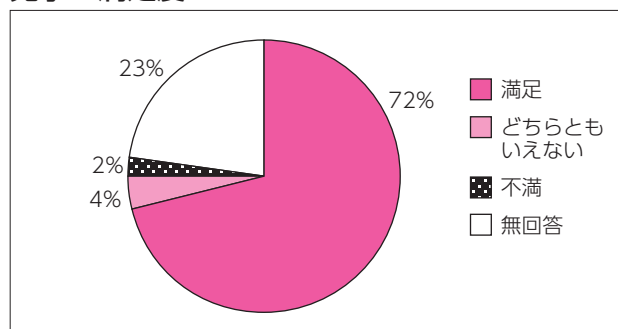
来館回数



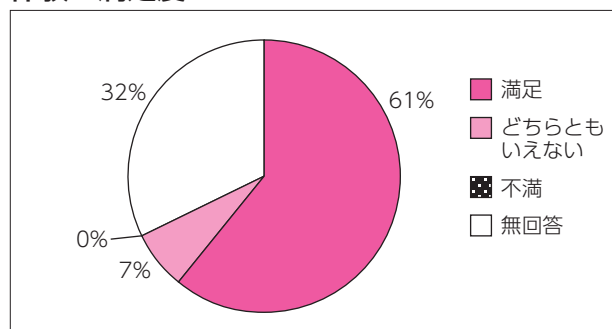
来館目的（複数回答）



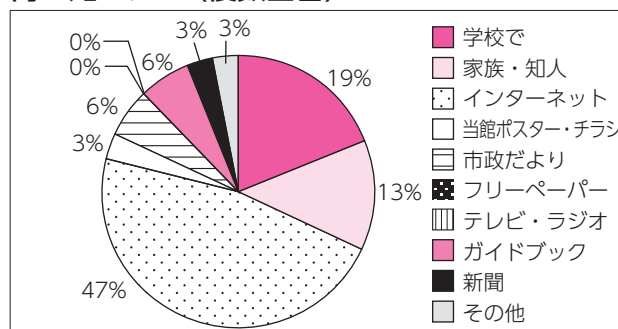
見学の満足度



体験の満足度



何で知ったか（複数回答）



4. 平成30年度事業計画

基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画に基づき、「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互補完し合い、山田上ノ台遺跡の保存と活用を行う。また様々な展示・体験・講座を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として、調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体験活動などに展開し、芸術分野や他分野との積極的な交流を押し進めながら、各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

(1) 展示事業

① 常設展示

- i) ガイダンス展示の維持管理
- ii) エントランスホール体験作品展示
- iii) 復元住居や遺構表示の維持管理
- iv) 縄文の森植栽維持管理
- v) 縄文畑作物の管理と展示

② 企画展示事業

「仙山交流」をテーマに3回の企画展を実施する。

- (1) 春のコーナー展示 「仙山交流 in 仙台―上野遺跡と出土遺物―」3月16日(金)～6月10日(日)
- (2) 夏のコーナー展示 「仙山交流 in 山形―西海淵遺跡と出土遺物―」7月13日(金)～10月21日(日)
- (3) 冬のコーナー展示 「仙山交流 in 宮城」(仮)12月1日(金)～2月4日(月)

(2) 普及啓発事業

① ボランティア育成講座

新規のボランティアを募集し、来館者や参加者により分かりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

- ・第1回講座：開講式など
4月8日(日) 10:00～12:00
- ・第2回講座：土器・土製品づくり
4月22日(日) 10:00～15:00
- ・第3回講座：野焼き・火おこし
5月13日(日) 10:00～15:00
- ・第4回講座：勾玉・石のアクセサリーづくり
6月3日(日) 10:00～15:00

- ・第5回講座：ボランティア活動の実際・修了式
6月24日(日) 11:00～16:00
- ・第6回講座：類似施設のバス視察研修(地底の森ミュージアムと合同研修)
10月17日(水) 8:30～17:00

② 縄文講座

縄文時代研究に関する講演会実施し、最新の研究状況を取り上げる。

- 第1回講座：「縄文最新研究 最前線①」
12月9日(日) 13:30～15:00
- 第2回講座：「縄文最新研究 最前線②」
1月20日(日) 13:30～15:00
- 第3回講座：「縄文最新研究 最前線③」
2月17日(日) 13:30～15:00

③ 縄文まつり(コンサート含む)

季節ごとに開催。春・秋には体験や縄文に関係したゲームなど実施。夏・冬には体験や縄文に関係したゲームなどのほか、コンサートも実施する。

- 縄文春まつり 5月13日(日) 10:00～15:00
- 縄文夏まつり 7月16日(月・祝) 10:00～15:00
- 縄文秋まつり 10月6日(土) 10:00～15:00
- 縄文冬まつり 2月3日(日) 10:00～15:00

④ 夏休み子ども考古学教室

火起こし、縄文食づくりなどのさまざまな体験を行う。
親子：日時：8月19日(日) 10:00～14:00

⑤ 特別イベント

縄文時代や歴史に関わる、普段とは異なる体験メニューを行うイベント。

日時：夏休み(8月6日)、秋休み(10月6日)、
冬休み(1月6日)、春休み(3月23日)

⑥ 週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し、縄文人の技と心を学ぶ。

日時：6月16日、7月21日、9月15日、11月18日、
1月26日、3月2日
(土・日／時間は回により異なる)

⑦ 発掘調査体験教室

敷地内で行われる発掘調査に参加する体験、出土遺物の水洗・拓本などの整理作業に参加する体験を行う。

日時：発掘調査＝10月10日(水)・13日(土)
10:00～12:00(希望者は15:00まで)
整理作業＝12月1日(土) 10:00～14:00

⑧ 縄文の知恵と技を学ぶ

本格的な縄文作品づくりを体験する教室。

日時：9月9日(日) 10:00～15:00
11月11日(日)・12月22日(土) 10:00～12:00

⑨ 利用学習事業【地底の森ミュージアムと合同して実施】

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる対象とし、地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の縄文体験による体験学習を行う。

日程：学校側の希望による(通年)

⑩ 施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校、子ども会、町内会などの各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。10人以上の団体を対象に、事前予約で受け入れ。

⑪ 随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。参加者の利便性を高め、より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう予約なしで随時受け入れることとする。

⑫ 出前講座

学校や市民センターなどからの依頼により職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行う(通年)。

⑬ 教職員研修【地底の森ミュージアムと合同して実施】

学校教育との連携事業を推進するために、仙台市内の教職員を対象(定員20名)として当館の概要および体験活動事業を周知する機会とするための研修を行う。

日時：8月3日(金) 9:30～17:00

⑭ 博物館実務実習

学芸員資格取得をめざす大学生を数人受け入れ、実習を行う。

日時：10月6日(土)～10日(水)(計5日間)
9:30～16:00

⑮ 職場体験・インターンシップ

近隣中学校の要請により、中学2年生を対象とした職場体験の受け入れなどを行う。

日時：11月～12月頃(学校の希望による)

⑯ 情報発信

- ・ホームページの更新
- ・フェイスブックの更新
- ・館内の情報提供(掲示物：発掘調査情報、他施設イベント情報)

⑰ ボランティア会との連携

- ・定例会開催と館運営の協力依頼
- ・自主的な会活動に対する支援
- ・ミュージアムグッズの共同開発と、製作販売の支援

⑱ 地域との連携

町内会などの地域の行事に対しては、共催や後援などの形で、活動の場を提供しながら支援を行う。

⑲ 運営懇談会 7月27日(金)、2月14日(木)

⑳ 専門研修 2月28日(木)

㉑ 事業団の自主事業

- 縄文のまつり復元と創造プロジェクト事業
 - 草舟づくり 6・7月の土日予定
 - 縄文人の記憶の宴 10月20日(土)
- 学校地域連携促進事業
 - ドキ土器チョコレイト
2月11日(月・祝)、3月10日(日)
 - 土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう
2月23日(土)
- 野外展示「縄文の森」多目的活用事業
 - 森でみつめる「じょうもん」9月～11月予定
- 縄文の森オリジナルグッズ制作販売

(3) 調査研究

- 縄文時代に関する調査研究
- 体験活動メニュー、プログラムに関する調査研究
- 復元住居の経年変化など観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究
- 西側広場一帯の整備に向けた調査研究
- ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施
- 上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行
- 平成31年度コーナー展示資料調査
- 縄文のまつり復元と創造プロジェクト事業(自主財源)

(4) 資料の収蔵

- ①仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡などの縄文時代を中心とした資料を適切に管理し、各種事業活動に活かす。
- ②事業活動の充実を図るため、縄文時代を中心とした資料、及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

(5) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管

理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(6) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年4回
- ②イベント紹介チラシ 年2回
- ③年報 (地底の森ミュージアムと合本)
- ④調査研究報告書 (地底の森ミュージアムと合本)
- ⑤リーフレット, パンフレット, 封筒
- ⑥施設広報ポスター

利用案内

1. 所在地

〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10番1号

2. 電話およびファクシミリ

TEL 022 (307) 5665 FAX 022 (743) 6771

3. 開館時間

午前9時～午後4時45分
(体験受付は午前9時～11時30分 午後12時30分～3時・入館は午後4時15分まで)

4. 入館料・共通券

区 分	個人	団体	共通入場券
一般	200円	160円	490円
高校生	150円	120円	280円
小・中学生	100円	80円	150円

- ・団体は30人以上、引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「縄文の森広場」共通入場券

5. 休館日

月曜日(休日は開館)・休日の翌日(休日、土・日曜日にあたる日は開館)・1月～11月の第4木曜日(休日は開館)・年末年始(12月28日～1月4日)

6. 交通案内

・バス

県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて 八木山動物公園駅バス停より宮城交通バス「日本平」行きにて「山田・太白消防署前」下車・徒歩5分

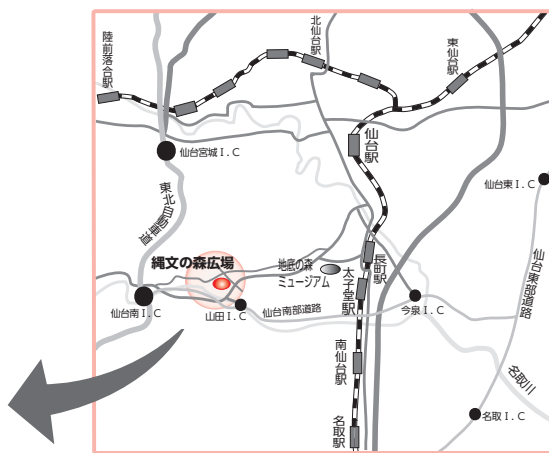
・車

東北自動車道：仙台南インターから約4km

仙台南部有料道路：山田インターから約1km

E-mail : j-hiroba@cap.ocn.ne.jp

URL:<http://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/>



地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 2018

発行日 平成30年10月31日

発行 仙台市教育委員会
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-5-12 上杉分庁舎 TEL (022) 214-8892

編集 (公財) 仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館
〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1 TEL (022) 246-9153

印刷 今野印刷株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10 TEL (022) 288-6123

